



防災

ハザードマップ 保存版

 はじめに (町民の皆様へ、防災ハザードマップの活用方法、緊急連絡先)	1	 避難所等一覧	10
 災害に備えるために	2	 わが家の防災対策&チェック	11
 5段階警戒レベル、防災情報の入手方法について	3	 備蓄品および非常時持ち出し品	12
 災害を知る(風水害について)	4	 全体図	13・14
 災害を知る(洪水災害について)	5	 詳細図①～⑰	15～48
 災害を知る(土砂災害について)	6	 ため池を知る	49
 災害を知る(地震対策について)	7	 ため池ハザードマップ	50～52
 災害を知る(火災対策について)	8	 マイタイムライン	53・54
 避難行動ガイド(避難とは、感染症対策)	9	 わが家の防災メモ	裏表紙



みなさん一人ひとりが防災の主役

近年、大規模地震や大雨、大型台風による土砂災害、河川の氾濫などの災害が相次いで発生し、尊い命が奪われるなど全国各地に大きな被害をもたらしております。

加美町では、大規模な自然災害の備えとして、新たに公表された「名蓋川」や「猪沢2号ため池」「菜切谷ため池」の浸水想定区域を周知するため「加美町防災ハザードマップ」を作製いたしました。

町民の皆様には、いざという時に備え、自分の住む町の災害による危険性を知り、この防災マップを日頃の防災対策にご活用いただきますようお願いいたします。

防災ハザードマップの活用方法について

① 地図上で家の位置と家の周りの災害の危険性を確認しましょう

この防災ハザードマップには想定される浸水深、土砂災害について表示しています。自分が住んでいる場所に、どのような水害の危険、土砂災害の危険があるかを確認しましょう。ただし雨の降り方や土地の状態によっては、地図に示された区域以外でも洪水や土砂災害が発生することがありますので、十分に注意してください。

② 避難所を確認しましょう

本書10ページの避難所等一覧で、自分の住んでいる地区で指定されている避難所がどこにあるのかを確認しましょう。そして地図上でその避難所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。

③ 避難経路を考えてみましょう

防災ハザードマップで自分が住んでいる場所から避難所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。地図上での確認が済んだら、実際に避難所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間を計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④ 家族や周辺住民と情報を共有しましょう

防災ハザードマップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。

災害や緊急時の連絡先

名 称	電話番号
警察(事件・事故)	110
消防(火災・救急)	119
東北電力ネットワーク(停電時)	0120-175-366
NTT東日本(故障時)	0120-444-113
加美町上下水道課 (上水道・下水道)	0229-63-3954

行政関係機関の連絡先

名 称	電話番号
加美町役場(代表)	0229-63-3111
加美町役場 小野田支所	0229-67-2111
加美町役場 宮崎支所	0229-69-5111
加美消防署	0229-63-2003
加美消防署 西部分署	0229-67-2369
加美警察署	0229-63-2311
小野田駐在所	0229-67-2011
西小野田駐在所	0229-67-2303
宮崎駐在所	0229-69-5011
賀美石駐在所	0229-67-2546

！災害に備えるために

●自助、共助、公助

災害に強いまちづくりを進めるためには、町および防災関係機関はもちろんのこと、住民や事業所の皆さんの主体的な取り組みと相互の連携を図っていくことが不可欠です。

東日本大震災や関東・東北豪雨をはじめ、全国で相次ぐ災害等において、あらためて自分の命は自分で守ること(自助)、地域における助け合い(共助)の取り組みが必要なが認識されています。

地域における自主防災の取組と、町や県をはじめ防災機関が実施する防災対策(公助)が連携し、防災関係機関、住民、事業者が力を合わせて防災(減災)対策を推進することが大切です。

自助 共助 公助 が 一体となった防災対策

注：◇平常時／◆災害発生時

隣近所で助け合う

- ◇地域の防災訓練、意識の啓発、防災資機材の整備
- ◆安否確認、初期消火、救助・救急など
- ◆避難所の開設・運営、要支援者等への支援



自分の命は自分で守る

- ◇3日分の水・食料等の備蓄
- ◇災害時の対応を考え、事前の防災対策を実践
- ◆身の安全確保、周囲状況確認など

町と防災関係機関が連携し、 防災対策に全力をあげる

- ◇防災教育、啓発、自主防災組織の育成
- ◇ソフト・ハードの防災対策
- ◇訓練の実施、関係機関関連の取組
- ◆人命救助、避難者支援、情報提供など
- ◆ライフラインの早期回復

●災害に備える活動

①防災知識の普及

●災害に備えるには、一人一人が防災に関する知識や消火、応急救護、救助等の技術を身に付けられるよう防災講習会や防災訓練に参加するなど心がけましょう。

②自主防災組織等

●防災ハザードマップを活用して、危険箇所や避難場所の確認、災害時の行動基準などを確認しましょう。

●自主防災組織は、災害時に隣近所で助け合う地域防災の中核となります。

日頃から地域でのつながりを持ち、ひとりでも多く地域の防災活動に参加しましょう。

③防災訓練

●災害発生を未然に防止し、被害を最小限にとどめるため地域や町が行う訓練に積極的に参加しましょう。



自主防災



●ペットの避難

災害は突然起こります。いざというとき、ペットを守れるのは飼い主だけです。

まず飼い主が無事であること、そして避難する場合にはペットと一緒に避難場所に避難すること(同行避難)が基本です。ともに安全に避難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃からの心構えと備えが大切です。

(「ペットも守ろう！防災対策」(環境省)をもとに作成)



！ 5段階警戒レベル、防災情報の入手方法について

警戒レベルについて 警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、加美町が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒 レベル	避難情報等	状況	住民がとるべき行動	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	緊急安全確保	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！ <ul style="list-style-type: none"> 警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません！ ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。 	5 相当 氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難！ > ~~~~~					
4	避難指示	災害の おそれ高い	<b>危険な場所から全員避難</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。</li> </ul>	4 相当 氾濫危険情報	土砂災害 警戒情報
3	高齢者等避難	災害の おそれあり	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。</li> <li>さらに、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。</li> </ul>	3 相当 氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	大雨・洪水 注意報	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	2 相当 氾濫注意情報	———
1	早期注意情報	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	1 相当 ———	———

※加美町長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、避難情報等(警戒レベル)と気象庁等の警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

## 災害時の情報収集に役立つウェブサイト

### 水位 情報

#### 国土交通省「川の防災情報」

降雨状況とすべての観測所の観測記録を提供しています。

▶ <http://www.river.go.jp/>



### 県内の 防災情報

#### 宮城県防災情報ポータル

県内の防災気象情報や市町村の土砂・河川・通路避難情報など確認できます。

▶ <https://miyagi-bousai.secure.force.com/>



### 気象 情報

#### 気象庁(天気・キキクル)

大雨による災害発生危険度をリアルタイムで確認できます。

▶ <https://www.jma.go.jp/>



#### 加美町の防災・災害に関する情報

加美町ホームページ

▶ <https://www.town.kami.miyagi.jp>



雨が降り続いていたら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報を入手しましょう。特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる行動(自主避難)することが命を守ることになります。



インターネット・  
気象庁ホームページ

テレビ・ラジオ





# 風水害について

## 大雨情報をキャッチ！こんなときのわが家の安全対策。 大雨注意報・警報の発表基準

### 大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。

### 大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。

### 大雨特別警報

数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、重大な災害が起こるおそれが著しく大きい状況と予想される場合。

## 雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
<b>やや強い雨</b>	<b>強い雨</b>	<b>激しい雨</b>	<b>非常に激しい雨</b>	<b>猛烈な雨</b>
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

## 風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～30未満	30以上
<b>やや強い風</b>	<b>強い風</b>	<b>非常に強い風</b>	<b>猛烈な風</b>
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	何かにつかまっていないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

## 竜巻から身を守る

### 竜巻の発生・接近を確認した時の退避行動

屋内の退避行動	屋外の退避行動
雨戸、窓、カーテンを閉める。建物の中心部に近い安全な部屋に移動する。	屋内に退避する。 —大雨や雷に遭う可能性も高いので、早めに退避！ —人が集まる屋外行事、テントの使用、高所・クレーン・足場等での作業をしている場合は、早めに避難！
	出典：気象庁リーフレット「竜巻から身を守る！～自ら身を守るために～」 ( <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tatsumaki201408/index.html">http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tatsumaki201408/index.html</a> ) を一部抜粋して作成しています。
	気象庁 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 電話：03-3212-8341 FAX：03-6689-2917(耳の不自由な方向け) 気象庁ホームページ <a href="https://www.jma.go.jp">https://www.jma.go.jp</a>

## 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- テレビ・ラジオなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、  
注意して  
おきましょう！







# 洪水災害について

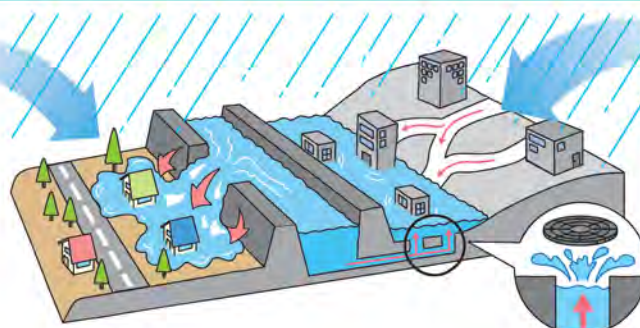
水防法に基づき、大雨による鳴瀬川・多田川・田川・名蓋川の最大浸水想定区域が公表されました。洪水ハザード情報をマップに掲載しています。以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

## 1

### 氾濫の種類

#### 外水氾濫(洪水)

大雨によって河川を流れる水が大幅に増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊することにより水が流れ出す現象を「外水氾濫」と言います。



#### 内水氾濫

大雨により、河川の水位が上昇することで、下水道や水路からの排水ができなくなり、水があふれ出す現象を「内水氾濫」と言います。

## 2

### 説明(外水氾濫)

- この「加美町防災ハザードマップ」で使用しているハザード情報は、加美町に關係する河川のうち4河川(鳴瀬川・多田川・田川・名蓋川)が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。浸水の目安は下図の「浸水ランクの目安」でご確認ください。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。

5m以上の区域		5.0m
3~5m未満の区域	2階の軒下まで浸水する程度	3.0m
0.5~3m未満の区域	1階の全てが浸水する程度	0.5m
0.5m未満の区域	大人の膝まで浸水する程度	

●浸水ランクの目安●



## 3

### 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

#### 洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。

#### 洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。

#### 指定河川洪水予報など

- 鳴瀬川・多田川については、仙台管区気象台の予測する降水量をもとに、河川を管理する北上川下流河川事務所が河川水位の危険度を予測し、共同発表します。また、県管理部分については避難判断水位に達したとき宮城県が「避難判断水位到達情報」を発表します。

#### 水位にともなう判断基準イメージ



## 4

### 大雨のときの心得

- 大雨のときは、川や用水路の様子を見に行かない。
- 避難は浸水する前に早めに行いましょう。
- 道路が冠水している時は、無理に避難しない。
- 暗くなると危険ですので早めに避難しましょう。
- 浸水して避難が難しいときは、2階以上に避難(垂直避難)することが有効です。

2階以上へ避難





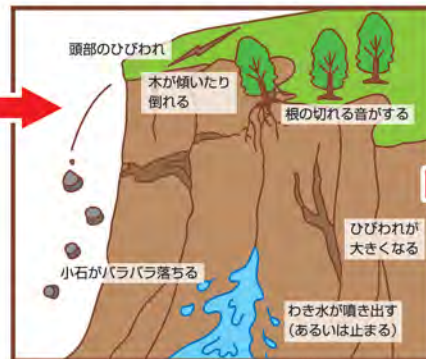


# 土砂災害について

## 土砂災害の種類

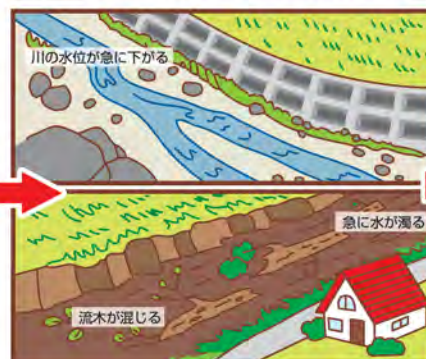
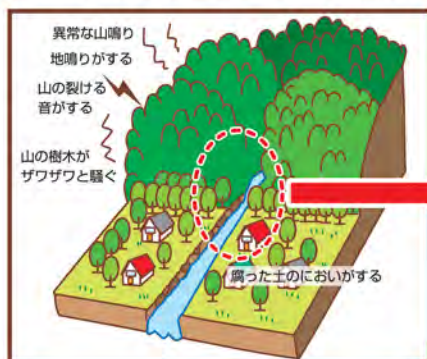
### がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



### 土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

## 危険箇所内の重要性の高い箇所について

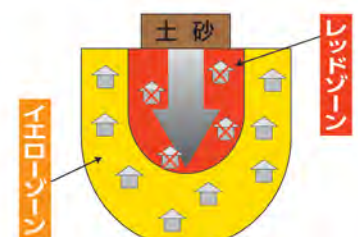
土砂災害防止法に基づき、宮城県が計画的に基礎調査を実施し、危険箇所内の重要性の高い箇所について、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定が行われています。(中新田地区15箇所、小野田地区10箇所、宮崎地区16箇所)

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域







# 地震対策について

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

**地震発生**

1~2分

### 最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



### 揺れがおさまったら

- 火の確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根・ブロック塀・自動販売機等要注意



### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に  
声をかけよう

- 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか

出火防止  
初期消火

- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意



3分

5分

### ラジオ・緊急速報メールなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する ●災害用伝言ダイヤルの活用



10分  
数時間  
3日

### 協力して消火活動、救出・救護活動を

- 伝達される加美町からの情報に注意する。
- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日分の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理な救助、消火活動は行わず、自身の安全を第一に考える
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

## 屋内にいた場合

### 家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

### スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示に従い、落ち着いた行動をとる。



### 集合住宅

- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように非常階段等を使って避難する。

### ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示に従う。あわてずに冷静な行動をとる。



## 屋外にいた場合

### 路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



### 車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

### バスなどの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。





# 火災対策について

## 初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

# 1

### 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければなべなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

# 2

### 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



### 火元別初期消火のコツ

#### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

#### 石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

#### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すの方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

#### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

#### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

#### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

# 3

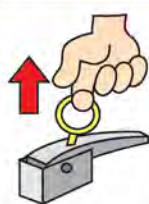
### 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



## 消火器の使い方

### 粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

### 消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



## 火災予防が一番!!

### 火災警報機の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報機の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

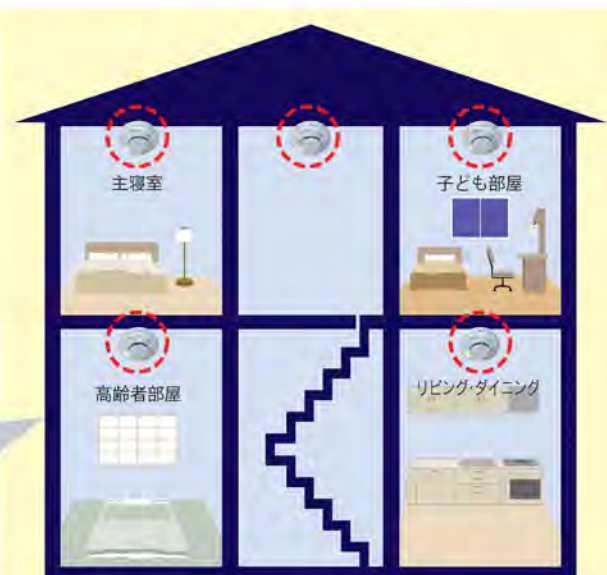
#### 火災警報機の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所への設置も必要です。

注意：住宅用火災警報機は電池式のものが主流です。電池の寿命は5年から10年とされていますので、早めの交換をお願いします。警報機の音を事前に確認することも重要です。



警報機



住宅内取付位置図



# 避難行動ガイド

## 大雨のとき

河川の近くや、土砂災害の恐れがある区域に対して、災害の発生の恐れが想定される場合に、「警戒レベル3 高齢者等避難」や「警戒レベル4 避難指示」を発令します。

また、「警戒レベル5 緊急安全確保」は、必ず発令される情報ではありませんので、警戒レベル4までに必ず避難をしましょう。

※町でも早めの避難情報の発令に努めますが、自らが早めに判断し、避難行動をとることが命を守ることにつながります。



## 地震のとき

地震発生後、火災やがけ崩れ等の危険が迫ったときに、避難指示を発令します。



## 避難とは・・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

<b>1</b> 指定緊急避難場所・指定避難所への移動	<b>2</b> 警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所への避難（公園、親戚や友人の家など）	<b>3</b> 近隣の強固で高い建物などへの移動	<b>4</b> 建物内の安全な場所での待避（家屋内への垂直避難） やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策では、斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。
屋外が安全で移動できる状態のとき			屋外が危険な状態のとき

被災状況によっては、避難所までの経路が通れなくなったり、避難施設そのものが使用できなくなるような場合もありますので、その際は町や地域のリーダー（区長）等の指示にしたがって避難しましょう。

## 避難所での主な感染症対策

3密（密閉、密集、密接）を避けましょう



常にマスクを着用して、咳エチケットを守りましょう



隣の人とは、1～2メートル離れて過ごしましょう



こまめに手洗い消毒をしましょう



定期的な換気を心掛けましょう



食器やタオルなどを他の人と共有するのはやめましょう



みんなで協力して避難所を清潔にしましょう



### 分散避難

避難所に避難するだけでなく、災害の危険性のない（親戚・知人宅等）へ避難することも、事前に検討しましょう。  
また、体調確認のため検温等にご協力いただくことがあります。

### 健康状態の確認

避難後に下記の症状に当てはまる場合は、決して我慢することなく、速やかに運営管理者へご報告ください。  
・風邪症状（発熱、咳等）、だるさ、呼吸困難、嗅覚・味覚障害

## 避難所における感染症対策のポイント

### ①避難先を検討しておきましょう

- 避難とは、「難」を「避」けることです。まずは、自宅の立地条件を確認し、自宅で安全が確保できる場合は、自宅にいるという選択（在宅避難）も検討しておきましょう。
- 安全が確保できる親戚や知人宅、ホテルなどへの避難も検討しておきましょう。
- やむを得ず車中泊する際は、周囲の安全確認を十分に行いましょう。

### ②必要となるものを、できる限り持参しましょう。

- 備蓄品には限りがあります。感染防止や健康状態確認のために必要な物のほか、おのおのが必要となる物を持参しましょう。

### ③避難所での過ごし方

- 避難所に入る前に、受付での検温、体調チェックを行います。
- 毎日体温を測り、自身の健康状態を確認しましょう。
- 食事前、トイレ使用後など、頻繁にせっけんとうで手を洗いましょう。

（例）



マスク



体温計



消毒液





# 避難所等一覧

## 指定緊急避難場所とは

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に危険から逃れるために一時的に避難する場所です。

## 指定避難所 補助避難所とは

災害の危険性がなくなるまで滞在したり、家に戻れなくなった方が一定期間滞在する施設です。

## 福祉避難所とは

災害時に指定避難所での生活が困難な高齢の方や障害をお持ちの方など特別な配慮を必要とする方を受け入れるための避難所です。



指定緊急避難場所



指定避難所



福祉避難所

## 指定緊急避難所・指定避難所一覧

NO	掲載頁	施設名称	所在地	指定緊急避難場所	災害ごとの適否			指定避難所	補助避難所	特設公衆電話設置
					洪水	土砂災害	地震			
1	P41	中新田小学校	字西田四番 7-1	●	—	○	○	●※	—	○
2	P41	中新田中学校	字一本杉 12	●	—	○	○	●※	—	○
3	P41	中新田保育所（所庭）	字雁原 27-5	●	—	○	○	—	—	○
4	P41	中新田公民館	字一本杉 63	—	—	—	—	—	○	○
5	P41	中新田体育館（駐車場）	字一本杉 58	●	—	○	○	—	—	○
6	P41	中新田児童館	字大門 176	—	—	—	—	—	○	○
7	P41	さわざくら公園	字西田一番 33	●	—	○	○	—	—	—
8	P41	中新田高等学校	字一本柳南 28	—	—	—	—	●※	—	○
9	P48	鳴瀬小学校	四日市場字舟橋 250	●	—	○	○	●※	—	○
10	P48	鳴瀬地区公民館	四日市場字舟橋 243	—	—	—	—	—	○※	—
11	P48	中新田交流センター	下新田字松木 3	●	—	○	○	—	○※	○
12	P42	タカノフーズ（株）東北工場	字雁原 175-8	●	—	○	○	—	—	—
13	P41	広原小学校	上狼塚字東北原 12-1	●	○	○	○	●	—	○
14	P31,41	広原地区公民館	上狼塚字東北原 12-1	—	—	—	—	—	○	○
15	P22	上多田川地区運動場・体育館・国立音楽院	上多田川字笹沢東 1-1	●	○	—	○	—	○	○
16	P39	小野田運動場	字長塚 133	●	○	○	○	—	—	—
17	P39	東小野田小学校	字南寺宿 45	●	○	○	○	●	—	○
18	P38,39	小野田中学校	字中原 23-41	●	○	○	○	●	—	○
19	P37	鹿原小学校	字鹿原水堀 3-1	●	○	○	○	●	—	○
20	P37,45	鹿原地区公民館（防雪センター）	字鹿原南原 3-4	●	○	○	○	—	○	○
21	P37	西小野田地区公民館	字上野目薬師堂 20	●	○	○	○	—	○	○
22	P37	西小野田小学校	字上野目高畑 5	●	○	○	○	●	—	○
23	P37	小野田保健センター	字上野目薬師堂 20	●	○	○	○	—	○	○
24	P34,35	小野田漆沢地区運動場	字漆沢宿尻 37	●	○	○	○	—	—	○
25	P28	宮崎公民館	宮崎字屋敷七番 45-1	●	○	○	○	—	○	○
26	P28	宮崎小学校	宮崎字屋敷一番 6-2	●	○	○	○	●	—	○
27	P28	まちづくりセンター	宮崎字町 38-1	●	○	○	○	—	○	○
28	P28	陶芸の里スポーツ公園	宮崎字新土手浦 1	●	○	○	○	—	○	○
29	P28	宮崎中学校	柳沢字松葉野屋敷 49	●	○	○	○	●	—	○
30	P18,19,26,27	旭地区地域づくりセンター	宮崎字小原 44-1	●	○	○	○	—	○	○
31	P26	旧旭小学校	宮崎字旭二番 1-1	●	○	○	○	●	—	○
32	P18	陶芸の里温泉交流センター	宮崎字切込二番 70	—	—	—	—	—	○	○
33	P29,39	賀美石地区公民館	鳥屋ヶ崎字山畑 25	●	○	○	○	—	○	○
34	P39	賀美石小学校（運動場）	鳥屋ヶ崎字神明 127	●	○	○	○	●	—	○
35	P39	旧大崎西部家畜市場	小泉字天神 76-1	●	○	○	○	—	—	—

NO.18 の「小野田中学校」は令和 5 年 4 月から名称が「鳴峰中学校」になります。「※」表記は、水害時2階以上が避難所となります。

## 福祉避難所一覧

NO	掲載頁	施設名称	所在地	受入対象者※
36	P41	中新田福祉センター	字町裏 320	要配慮者（日常生活に介助を要する高齢者、障がい者、乳幼児・妊産婦等）
37	P39	小野田福祉センター	字中原南 112	
38	P28	宮崎福祉センター	宮崎字屋敷七番 45-1	

※家族等も受入対象とする





# わが家の防災対策&チェック

いざという時に備え、日頃から避難の準備と心構えをしよう!

## 家族みんなで防災会議

災害は家族がいっしょにいるときに起こるとは限りません。いざというときにあわてず行動できるよう、家族で普段から話し合っておきましょう。

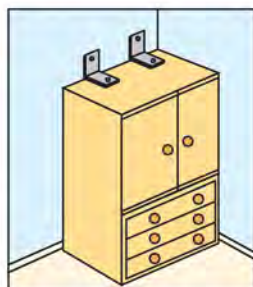
- ☐ 家の中で一番安全な場所
- ☐ 家族一人ひとりの役割分担
  - ・ 安否確認、非常時持出品・備蓄品のチェック、避難経路の確保、隣近所への連絡など
- ☐ 避難場所、避難経路
  - ・ 自宅と避難場所を確認し、マップに描き入れましょう
  - ・ 避難経路を実際に歩いて確認しましょう
- ☐ 自宅付近の災害リスク、危険個所の確認
- ☐ 災害が起こった時の身の守り方
- ☐ 家族が離ればなれでいたときの連絡手段、集合場所
- ☐ 要配慮者(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦など)のサポートと避難方法



## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

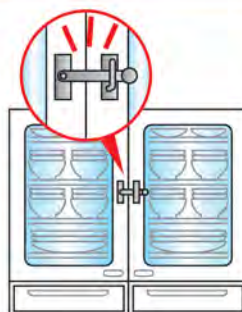
### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



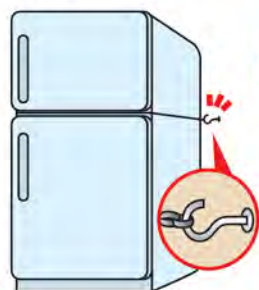
### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



### 照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



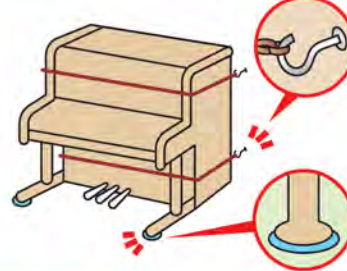
### 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



### テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

## 家の周囲の安全対策

### 屋根

不安定な屋根のアンテナの補強。トタンのめくれ、はがれはないか。瓦のひび、割れ、ずれ、はがれがないか。

### ブロック塀・門柱

土中にしっかりした基礎、控え壁のないものは補強。ひび割れや鉄筋のサビはないか。

### 窓ガラス

強風による飛来物などに備え、外側から板でふさぐなどの処置を。飛散防止フィルムを貼る、ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。

### ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

### 非常口の確保

通路や出入口には、避難の際の妨げにならないよう、できるだけ自転車やベビーカーなどの物は置かない。

### 雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。

### 側溝

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因に。日頃からの清掃を。

### 外壁

板壁に腐りや浮きはないか。モルタルの壁に亀裂はないか。

### 家の周りのもの

プロパンガスのボンベはしっかり固定されているか。植木鉢などは整理整頓を。風に飛ばされそうなものは事前に屋内へ。



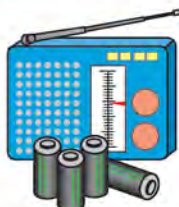


# 備蓄品および非常時持ち出し品

## 非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

### 情報収集用品



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)
- ☐ 携帯電話充電器
- ☐ モバイルバッテリー

### 救急医療品



- ☐ 常備薬
- ☐ きず薬
- ☐ かぜぐすり
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ ばんそうこう
- ☐ 包帯
- ☐ 胃腸薬

### 貴重品



- ☐ 現金
- ☐ 印鑑
- ☐ 健康保険証
- ☐ 預貯金通帳
- ☐ 免許証
- ☐ 権利証書

### 懐中電灯



- ☐ 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- ☐ 電池(多めに用意)

### 非常食品等

- ☐ 非常用食品
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 離乳食
- ☐ 粉ミルク



### 感染症対策

- ☐ マスク
- ☐ 消毒液
- ☐ 体温計



### その他

- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品(生理1周期分)
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 水筒
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ヘルメット
- ☐ 防災ハザードマップ(本書)
- ☐ 毛布・スリッパ
- ☐ タオル
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙コップ
- ☐ カップ
- ☐ ライター
- ☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 歯みがきセット
- ☐ おりものシート
- ☐ 携帯用ビデ、軟膏
- ☐ スキンケア用品
- ☐ 基礎化粧品等

## 非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの3日間から1週間を生活できるようにチェック☑しましょう。

### 飲料水



- ☐ 飲料水としてペットボトルやミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)又は貯水した防災タンクなど

### 非常食品



- ☐ お米(アルファ化米など)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

### 燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

### その他



- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など

## ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことをローリングストックと言います。

日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

ー対象品目の例ー

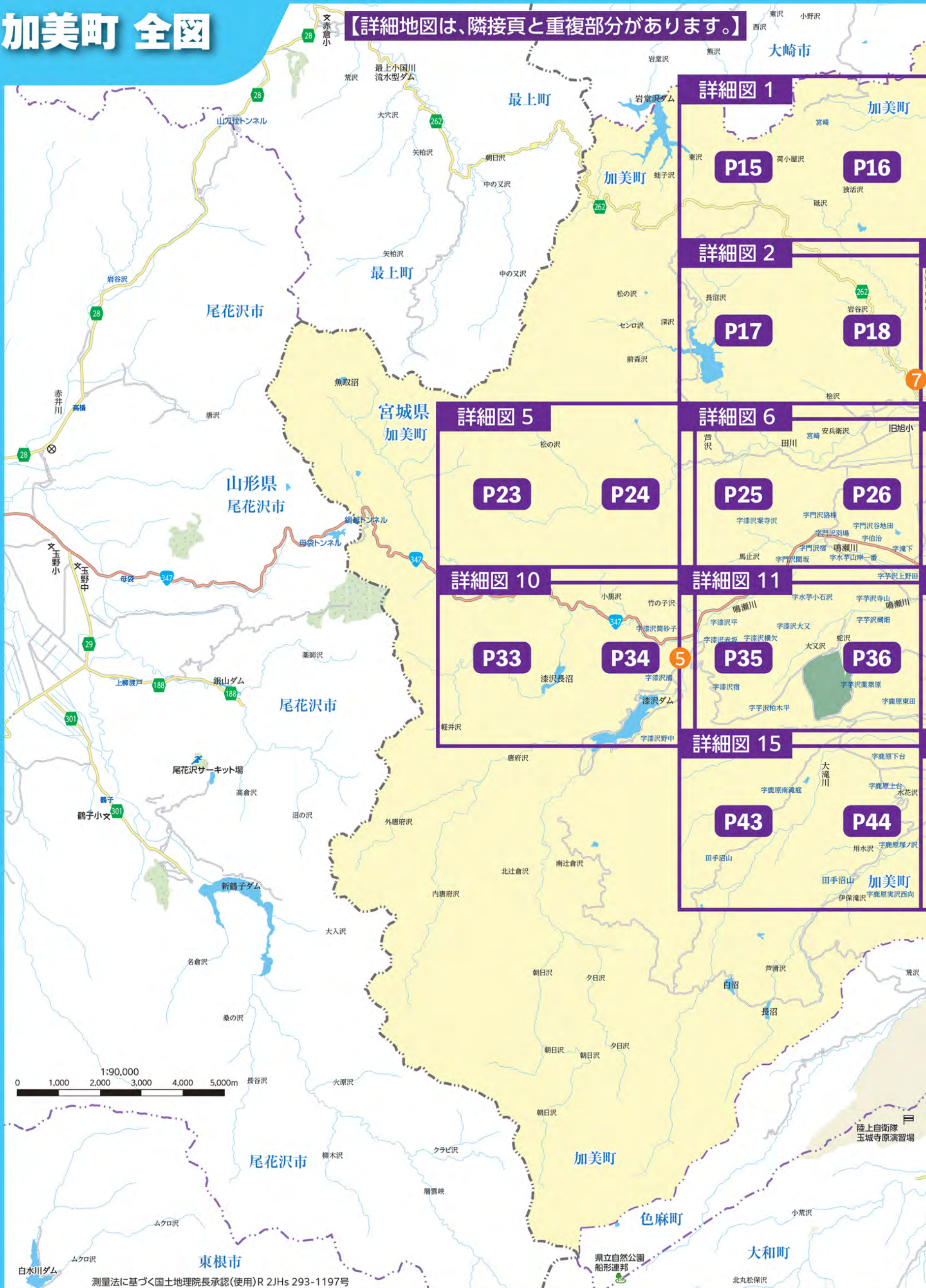
ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物、カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、トイレットペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、乾電池、使い捨てカイロ





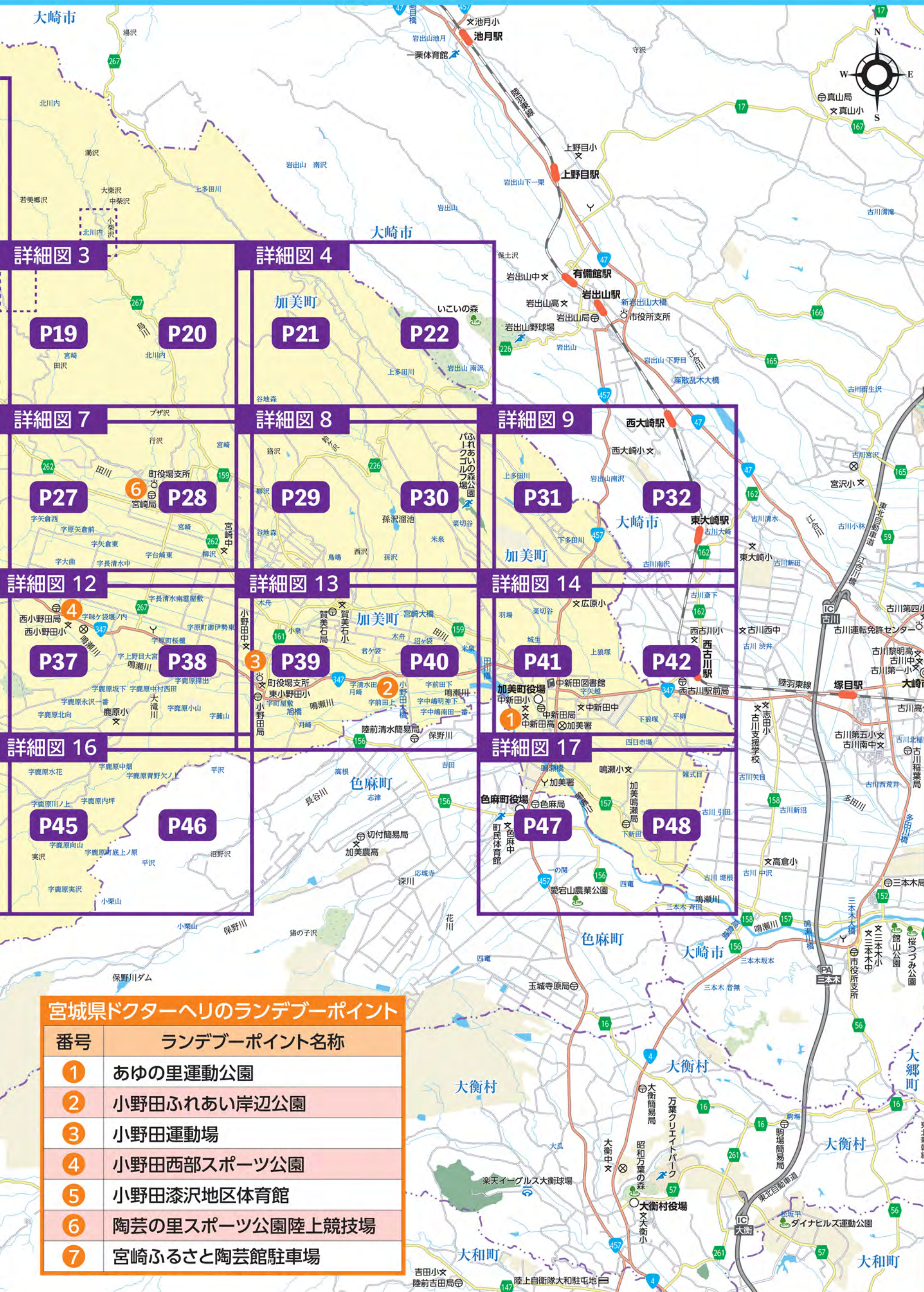
# 加美町 全図

【詳細地図は、隣接頁と重複部分があります。】

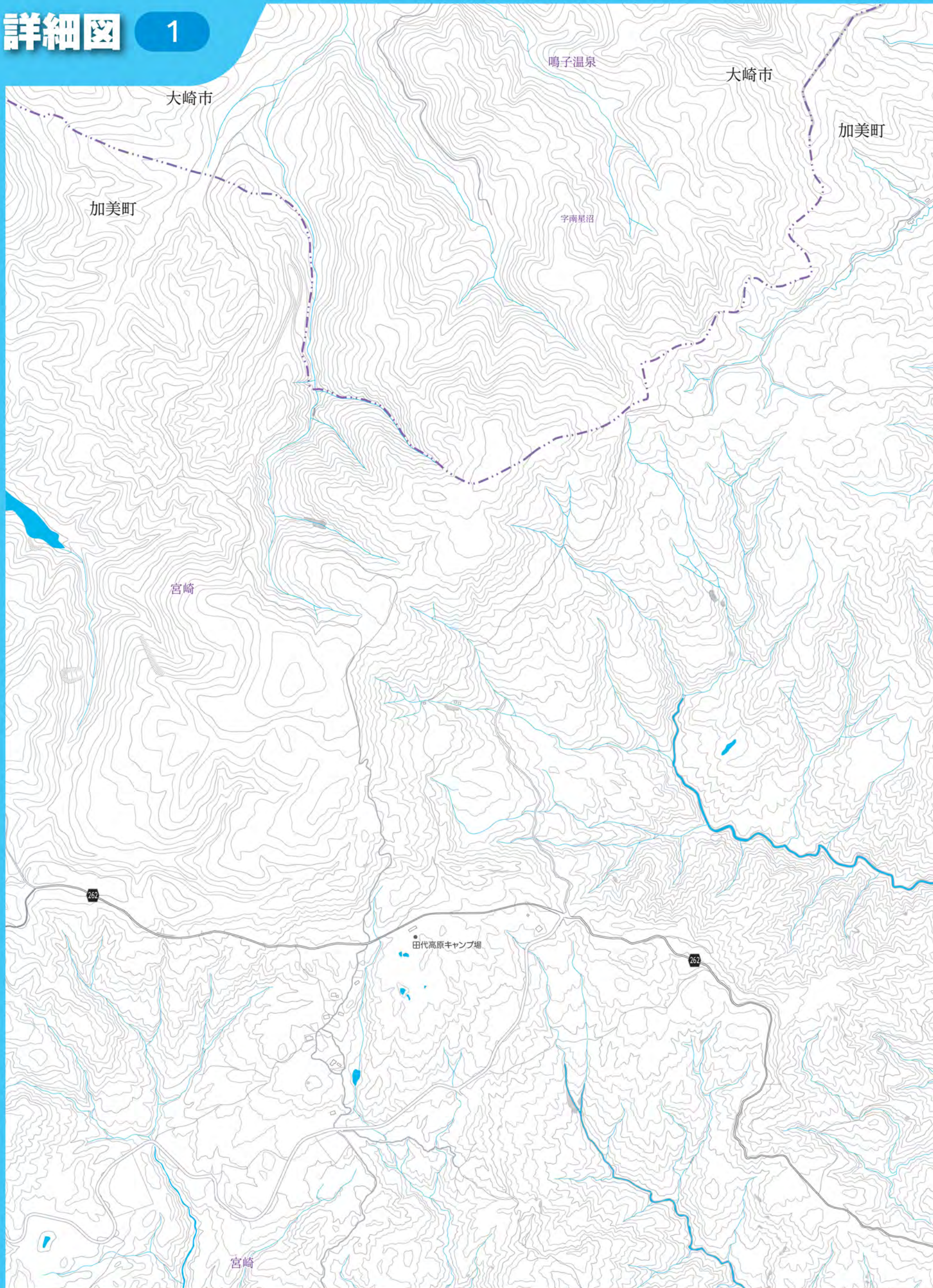


測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 293-1197号

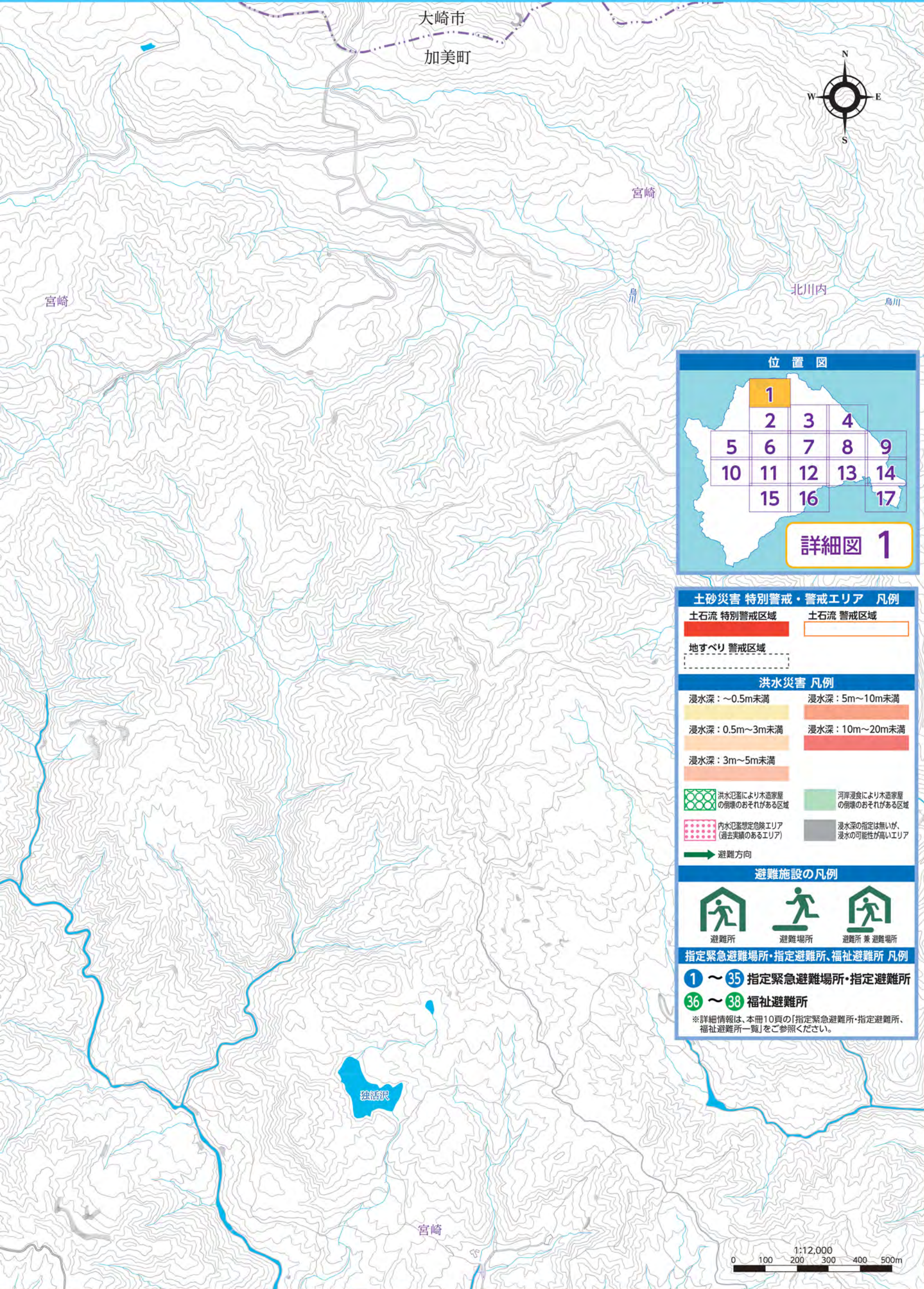












**土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例**

土石流 特別警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

**洪水災害 凡例**

浸水深：～0.5m未満	浸水深：5m～10m未満
浸水深：0.5m～3m未満	浸水深：10m～20m未満
浸水深：3m～5m未満	

洪水氾濫により木造家屋の倒壊のおそれがある区域	河岸浸食により木造家屋の倒壊のおそれがある区域
内水氾濫想定危険エリア（過去実績のあるエリア）	浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア

避難方向

**避難施設の凡例**

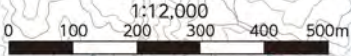
避難所	避難場所	避難所 兼 避難場所
-----	------	------------

**指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例**

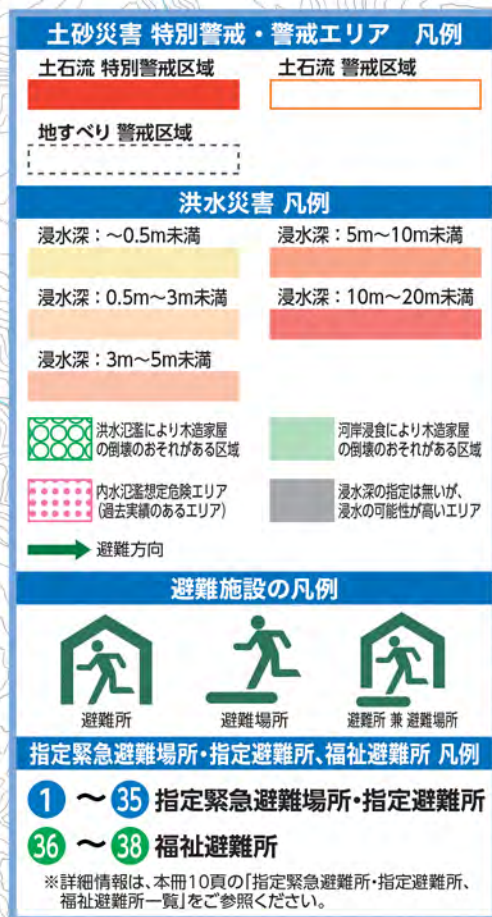
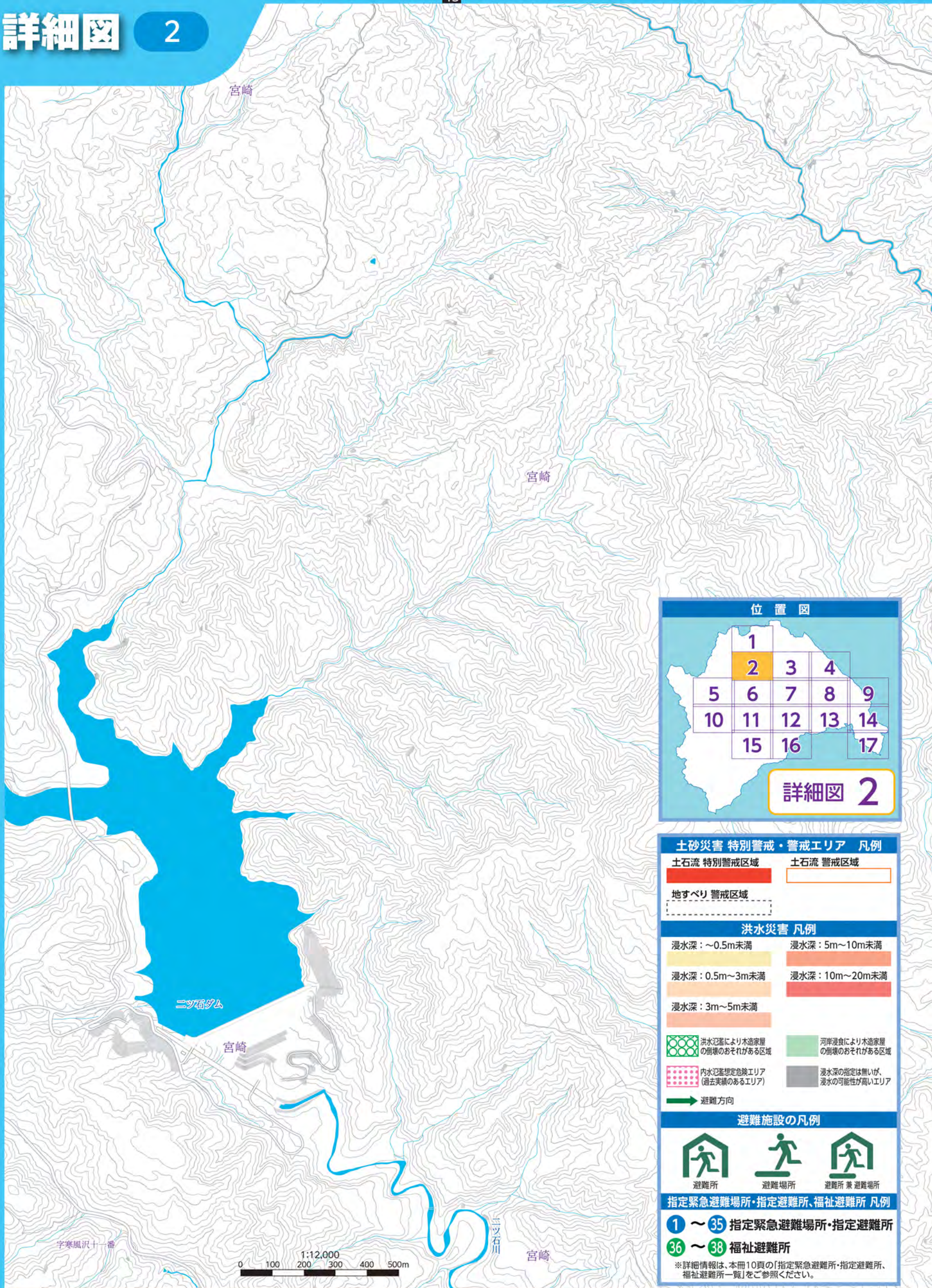
1 ～ 35 指定緊急避難場所・指定避難所

36 ～ 38 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。



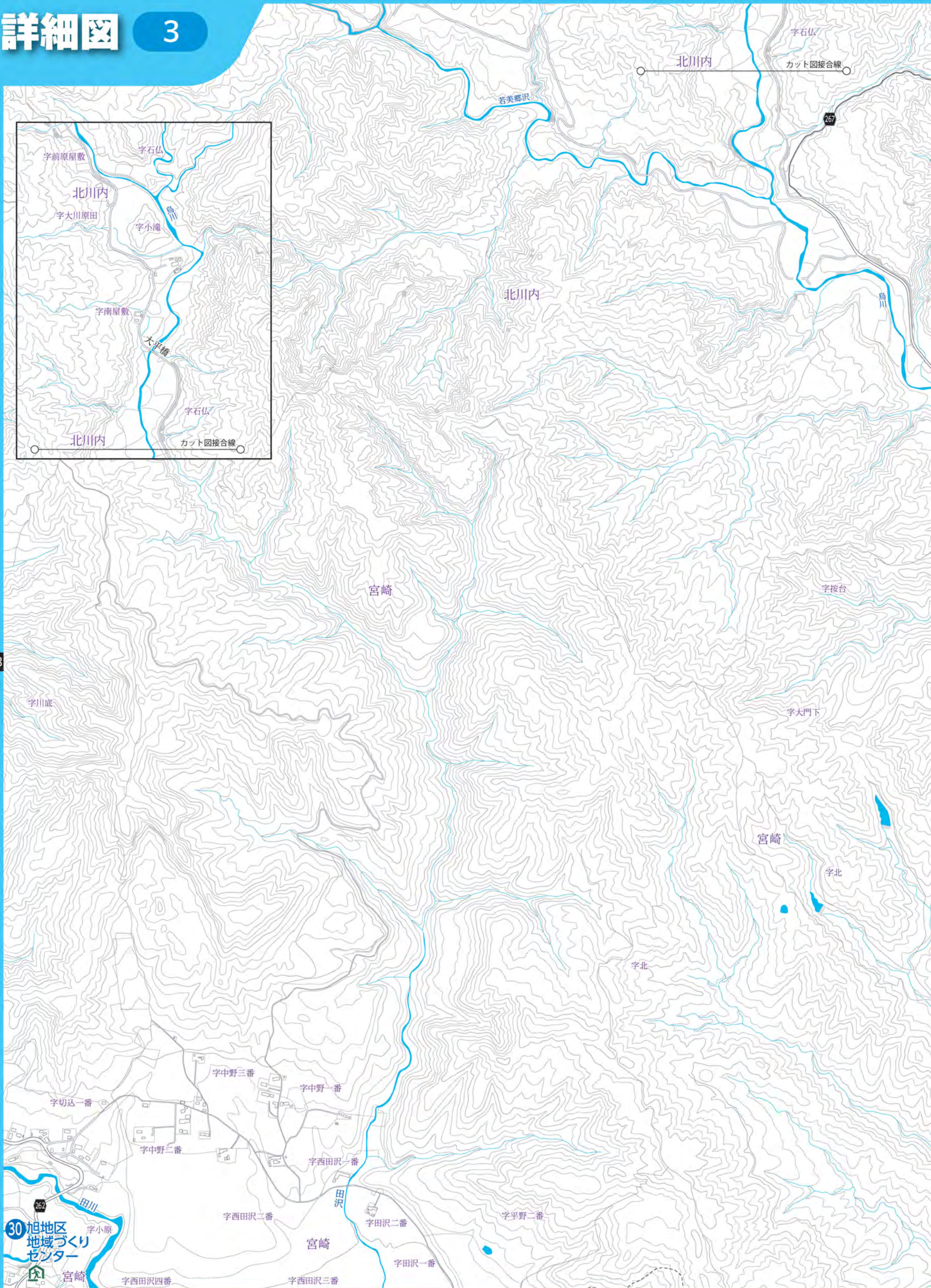
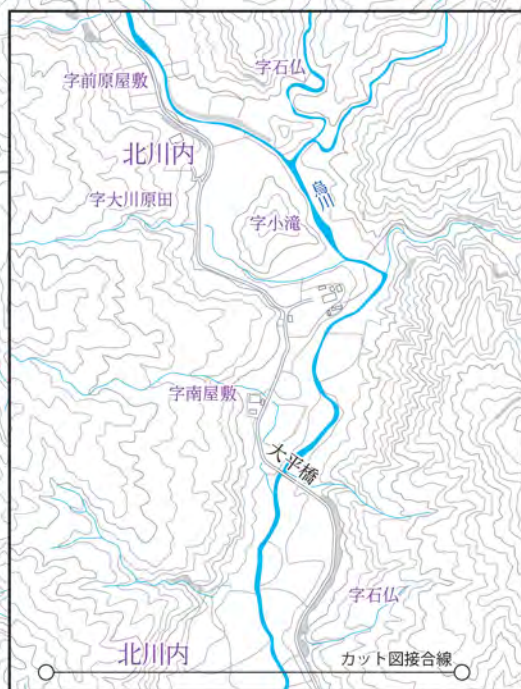




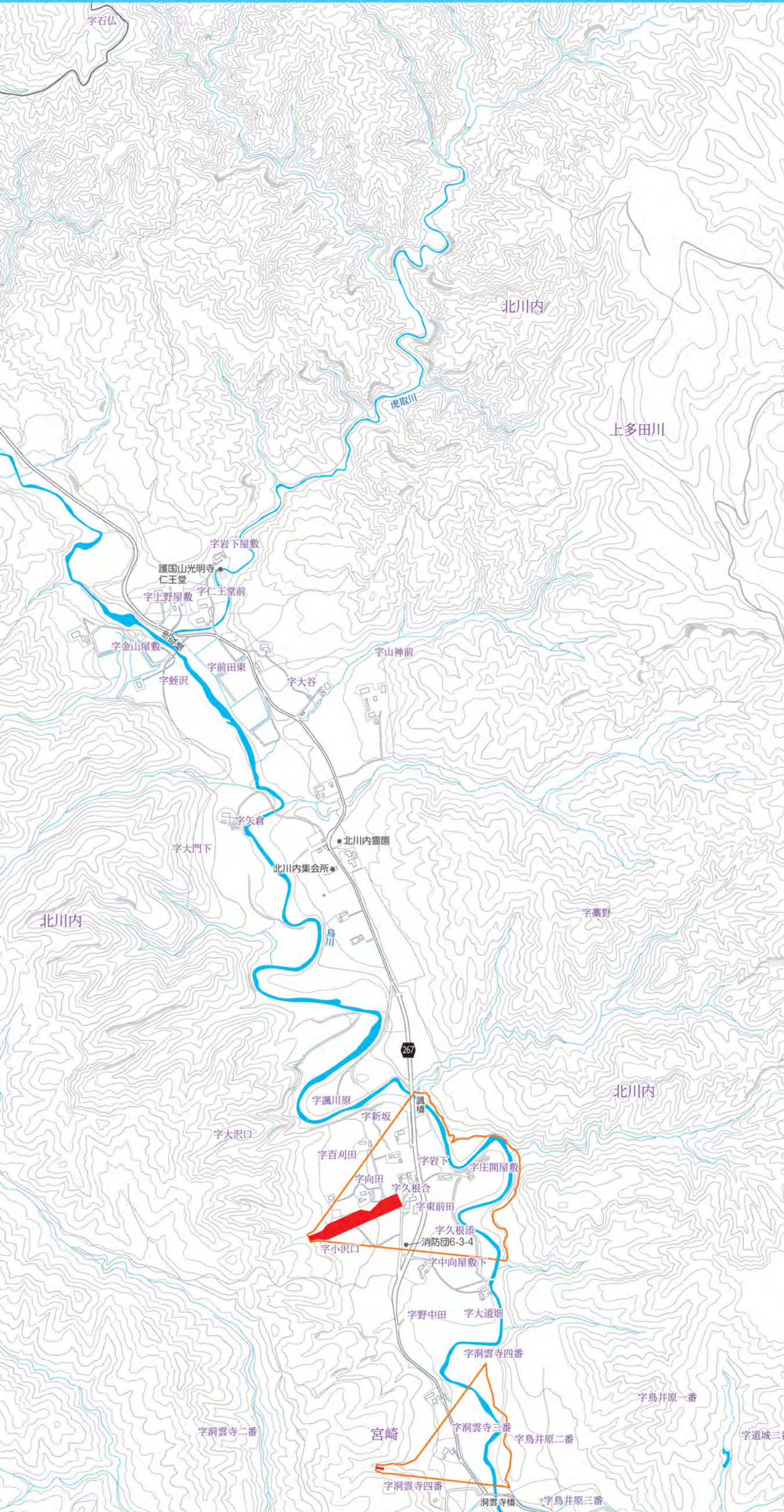












**土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例**

土石流 特別警戒区域 (Red solid line)  
土石流 警戒区域 (Orange solid line)  
地すべり 警戒区域 (Dashed line)

**洪水災害 凡例**

浸水深：～0.5m未満 (Yellow)  
浸水深：0.5m～3m未満 (Orange)  
浸水深：3m～5m未満 (Red)  
浸水深：5m～10m未満 (Dark Orange)  
浸水深：10m～20m未満 (Dark Red)

洪水氾濫により木造家屋の倒壊のおそれがある区域 (Green with circles)  
河岸浸食により木造家屋の倒壊のおそれがある区域 (Green with dots)  
内水氾濫想定危険エリア (過去実績のあるエリア) (Pink with dots)  
浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア (Grey with dots)

避難方向 (Green arrow)

**避難施設の凡例**

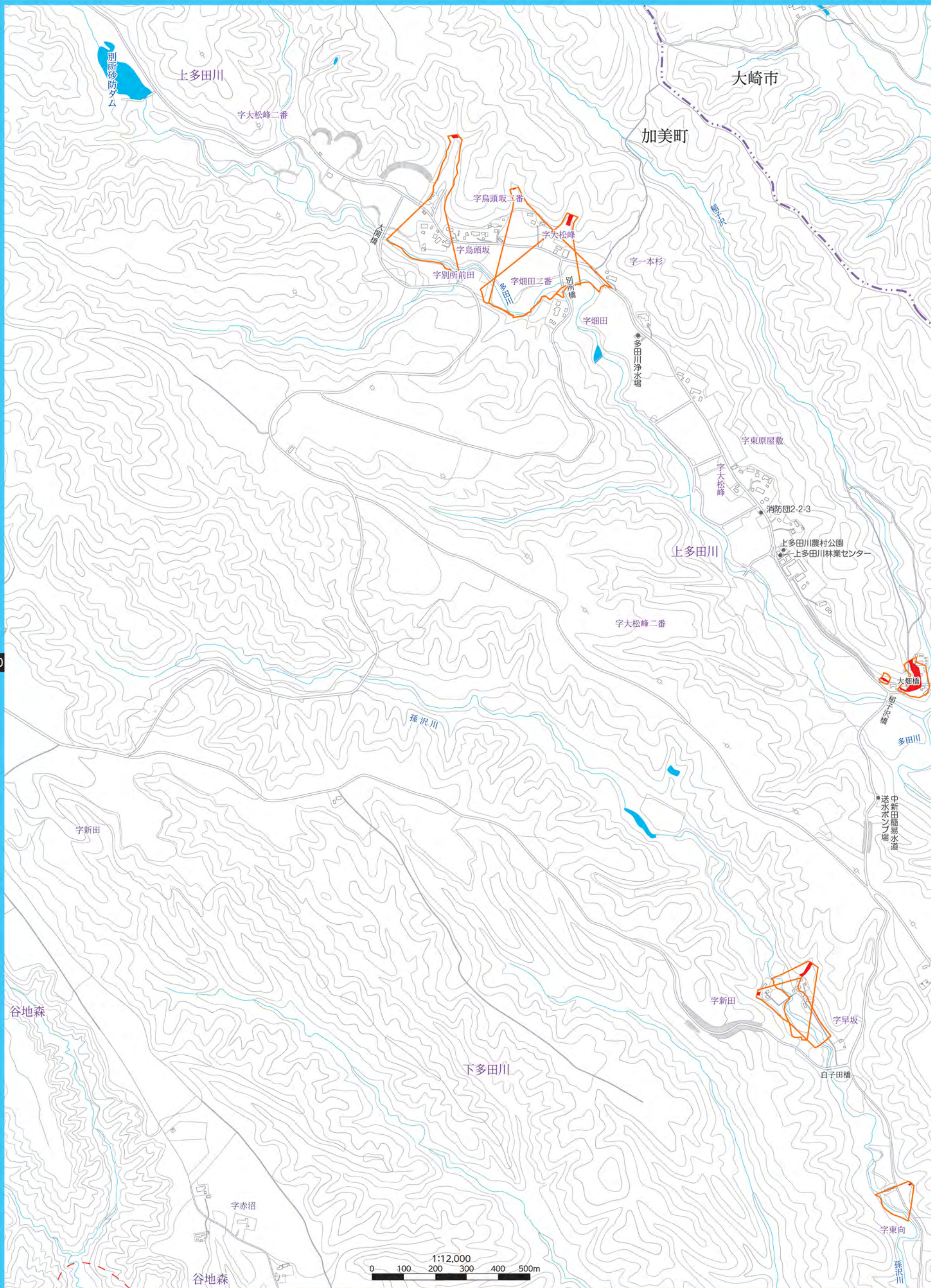
避難所 (Green house icon)  
避難場所 (Green person icon)  
避難所兼避難場所 (Green house and person icon)

**指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例**

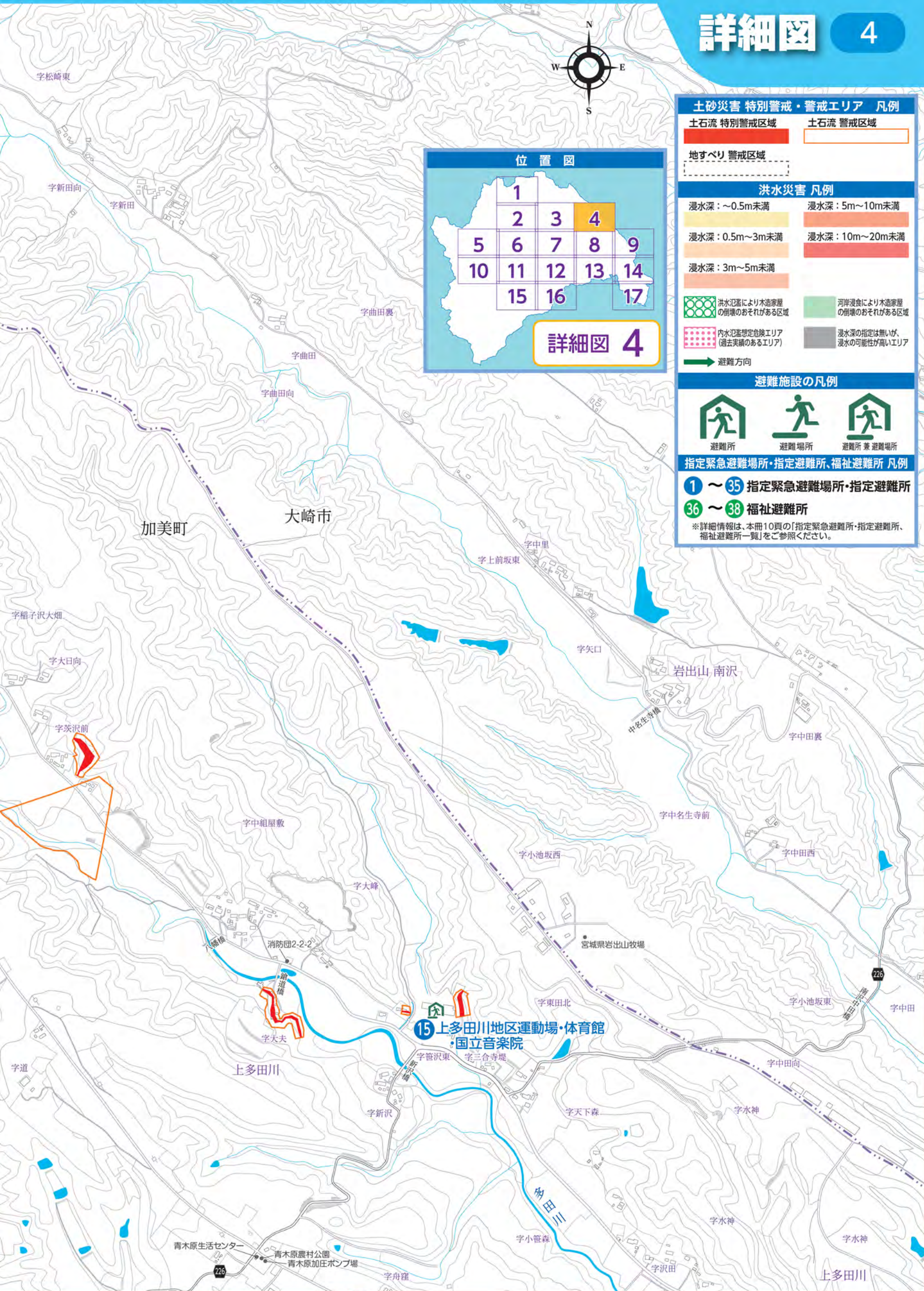
1 ～ 35 指定緊急避難場所・指定避難所  
36 ～ 38 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。













## 位置図



## 土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例

土石流 特別警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

## 洪水災害 凡例

浸水深：～0.5m未満	浸水深：5m～10m未満
浸水深：0.5m～3m未満	浸水深：10m～20m未満
浸水深：3m～5m未満	
洪水氾濫により木造家屋の倒壊のおそれがある区域	河岸浸食により木造家屋の倒壊のおそれがある区域
内水氾濫想定危険エリア（過去実績のあるエリア）	浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア
避難方向	

## 避難施設の凡例



避難所



避難場所



避難所兼 避難場所

## 指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例

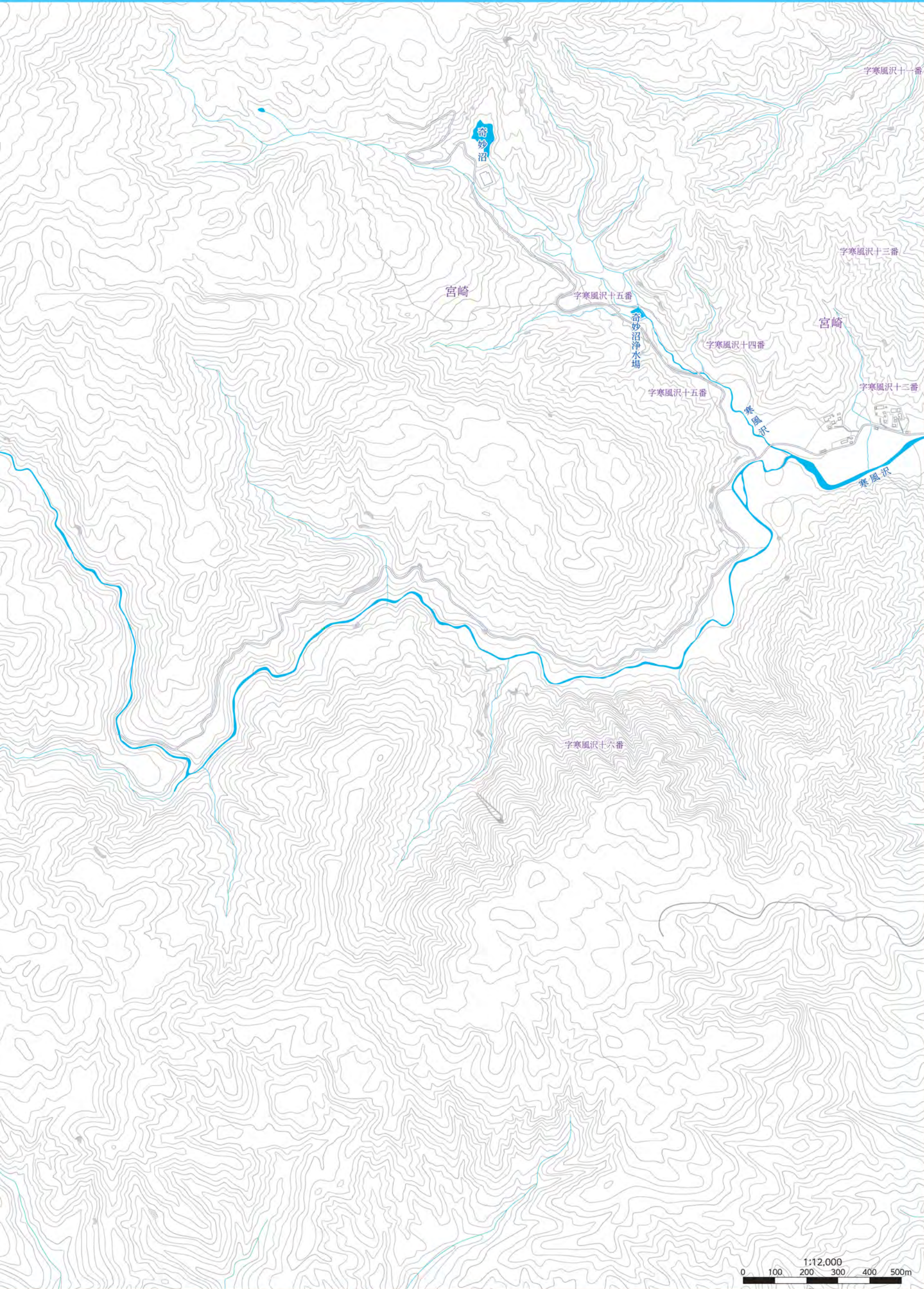
- ① ～ ③⑤ 指定緊急避難場所・指定避難所
- ③⑥ ～ ③⑧ 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。

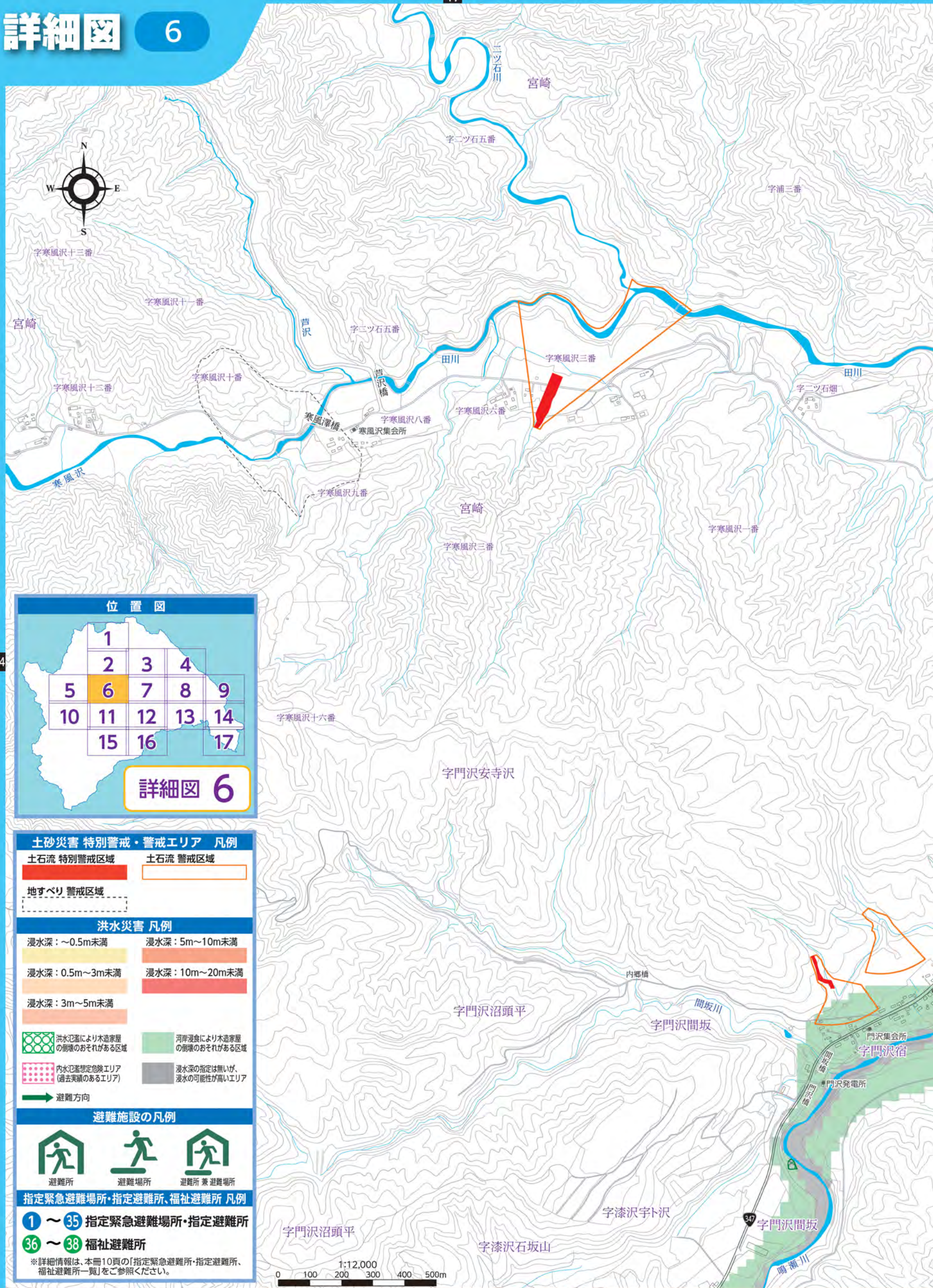
宮崎

内川

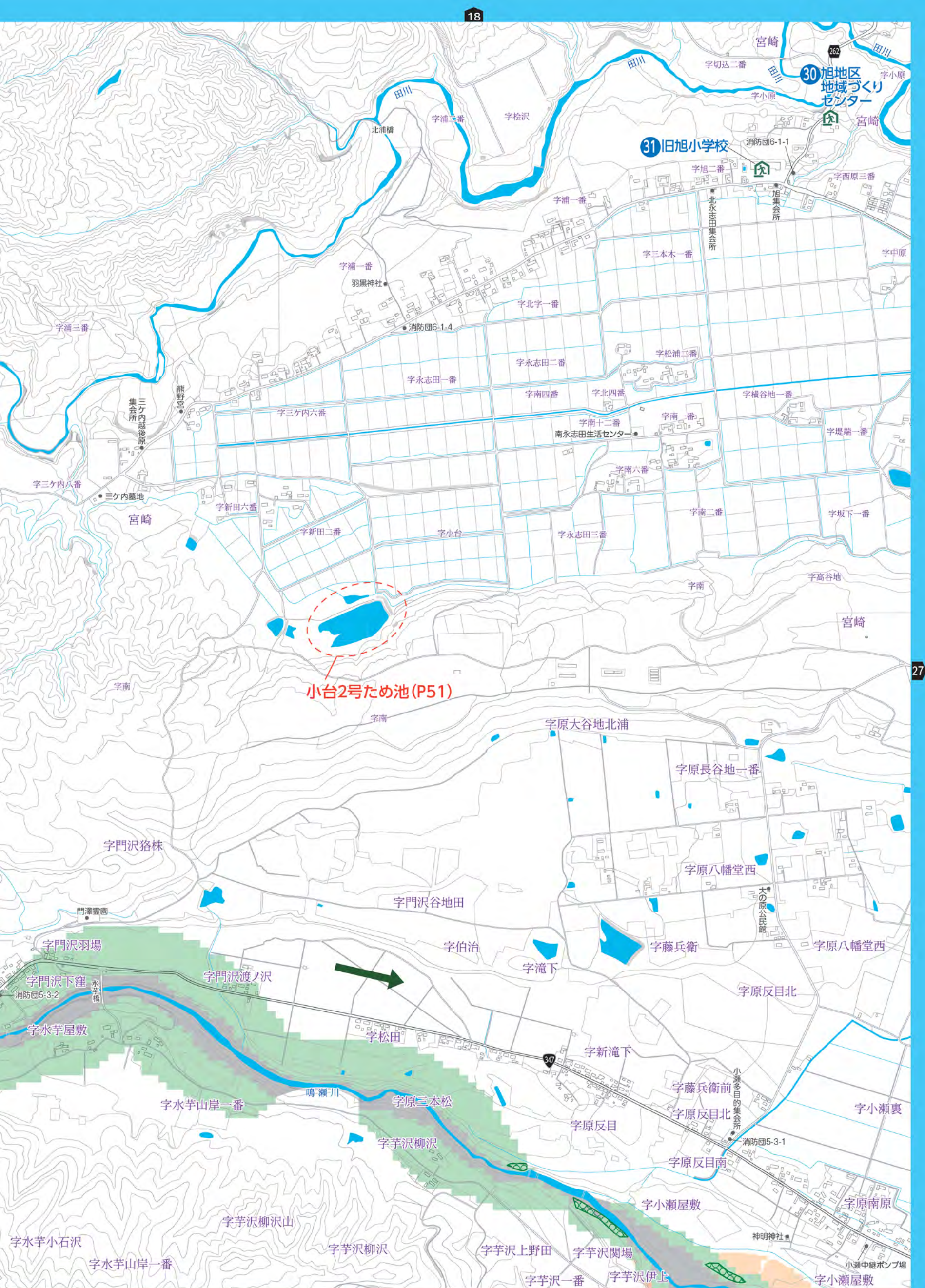




















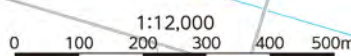
**土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例**

土石流 特別警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

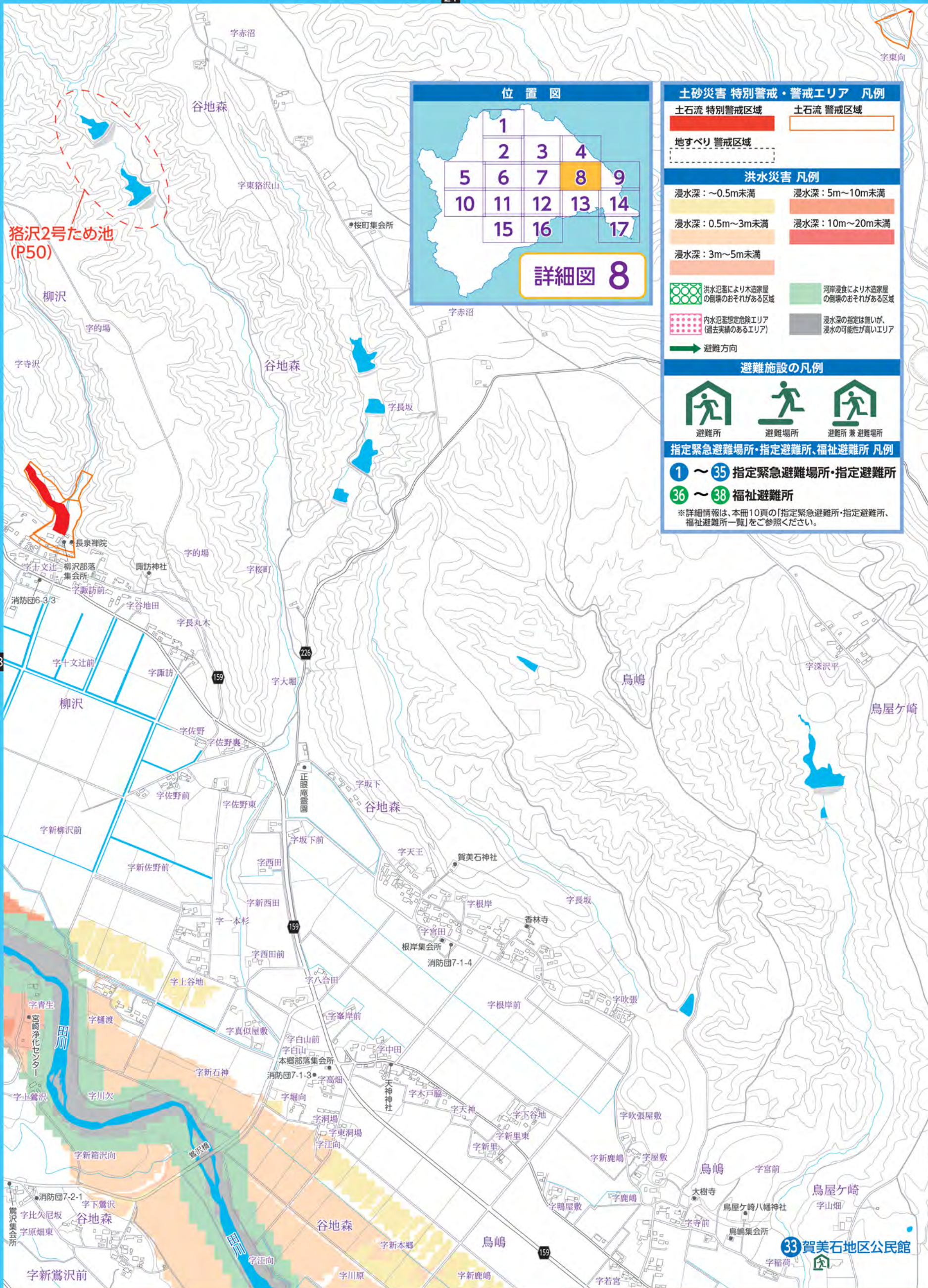
**洪水災害 凡例**

浸水深：～0.5m未満	浸水深：5m～10m未満
浸水深：0.5m～3m未満	浸水深：10m～20m未満
浸水深：3m～5m未満	
洪水氾濫により木造家屋の崩壊のおそれがある区域	河津浸食により木造家屋の崩壊のおそれがある区域
内水氾濫想定危険エリア (過去実績のあるエリア)	浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア

避難方向



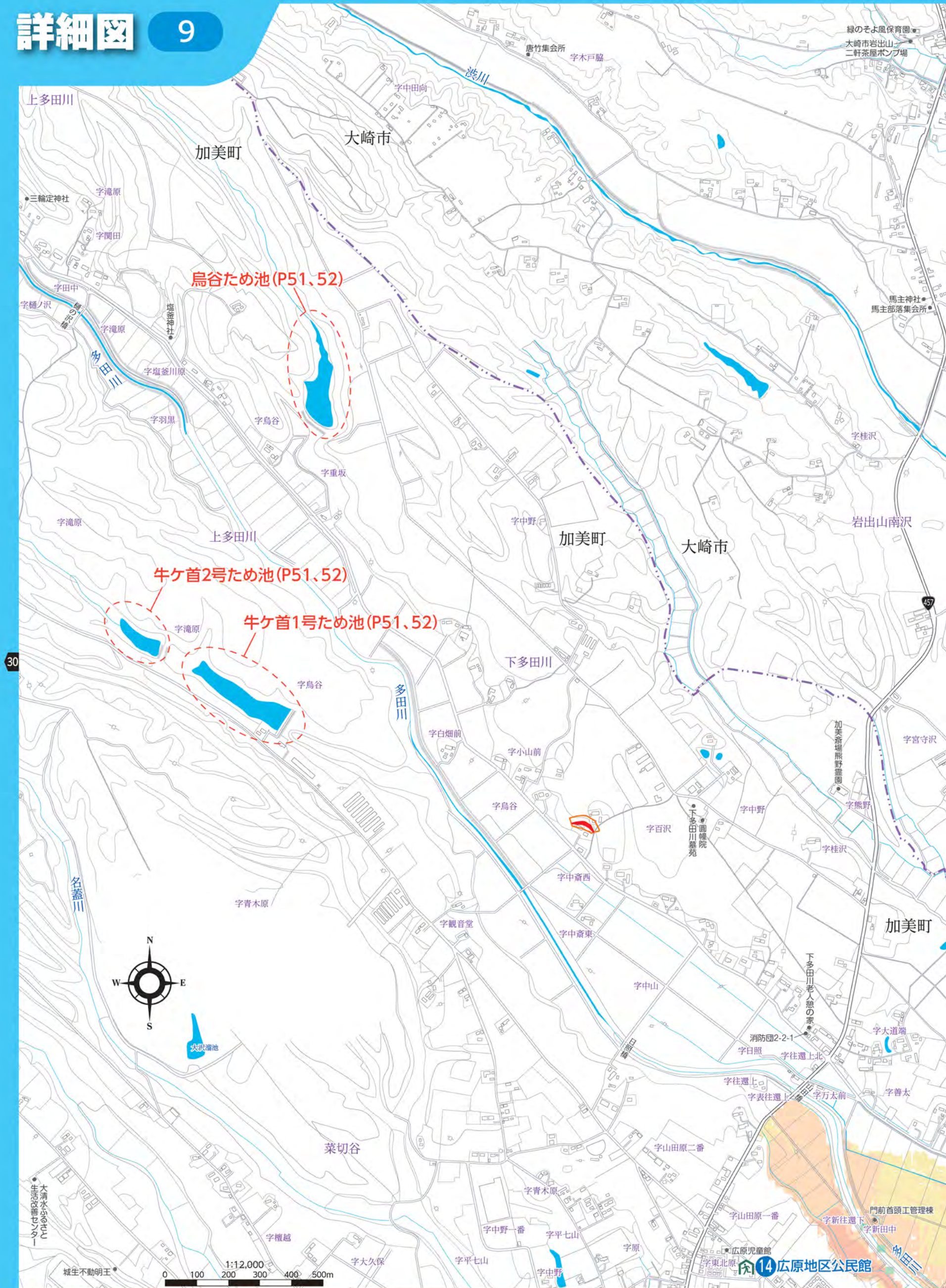




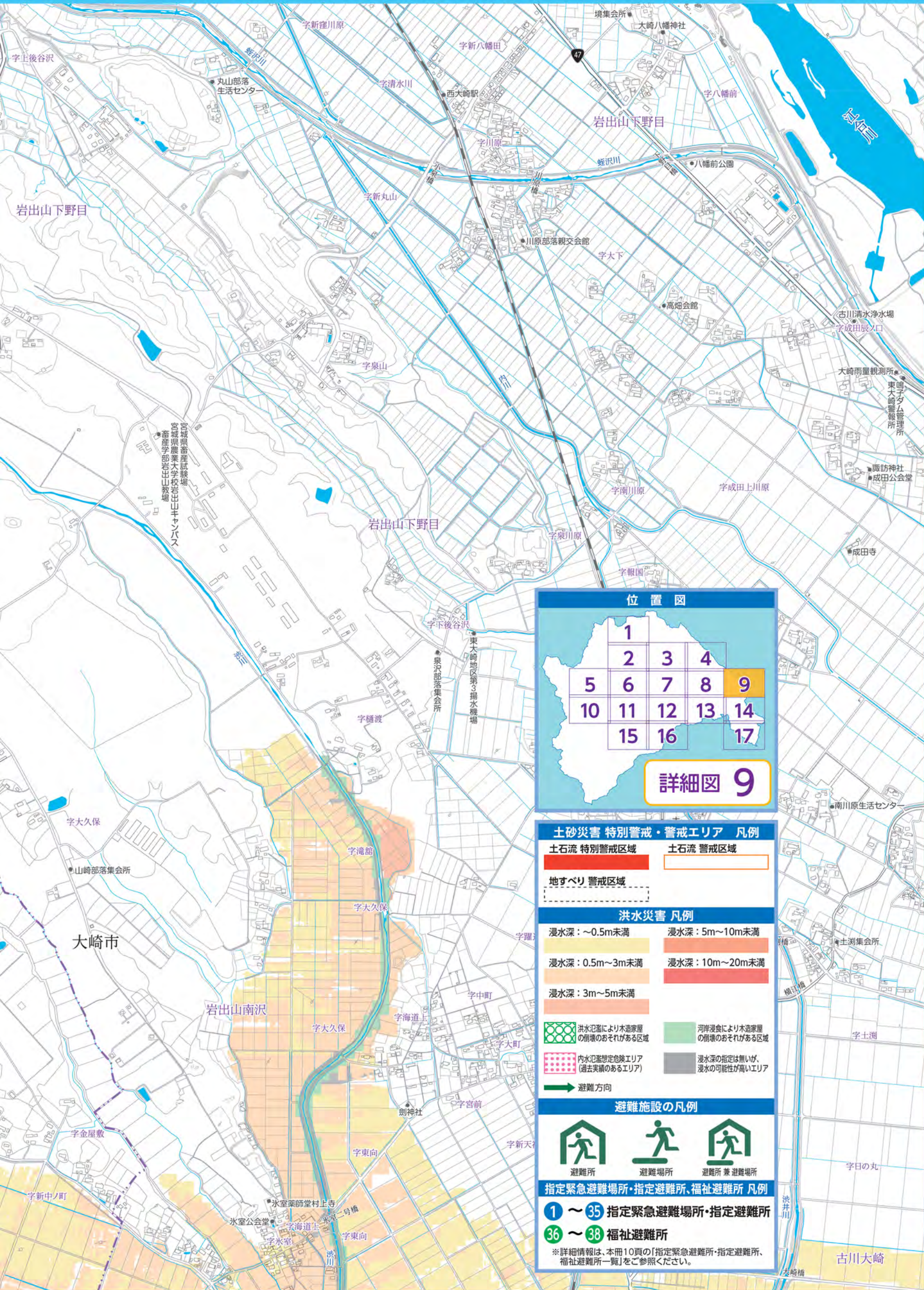












**土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例**

土石流 特別警戒区域  
土石流 警戒区域

地すべり 警戒区域

**洪水災害 凡例**

浸水深：～0.5m未満  
浸水深：0.5m～3m未満  
浸水深：3m～5m未満

浸水深：5m～10m未満  
浸水深：10m～20m未満

洪水氾濫により木造家屋の倒壊のおそれがある区域  
内水氾濫想定危険エリア（過去実績のあるエリア）

河岸浸食により木造家屋の倒壊のおそれがある区域  
浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア

避難方向

**避難施設の凡例**

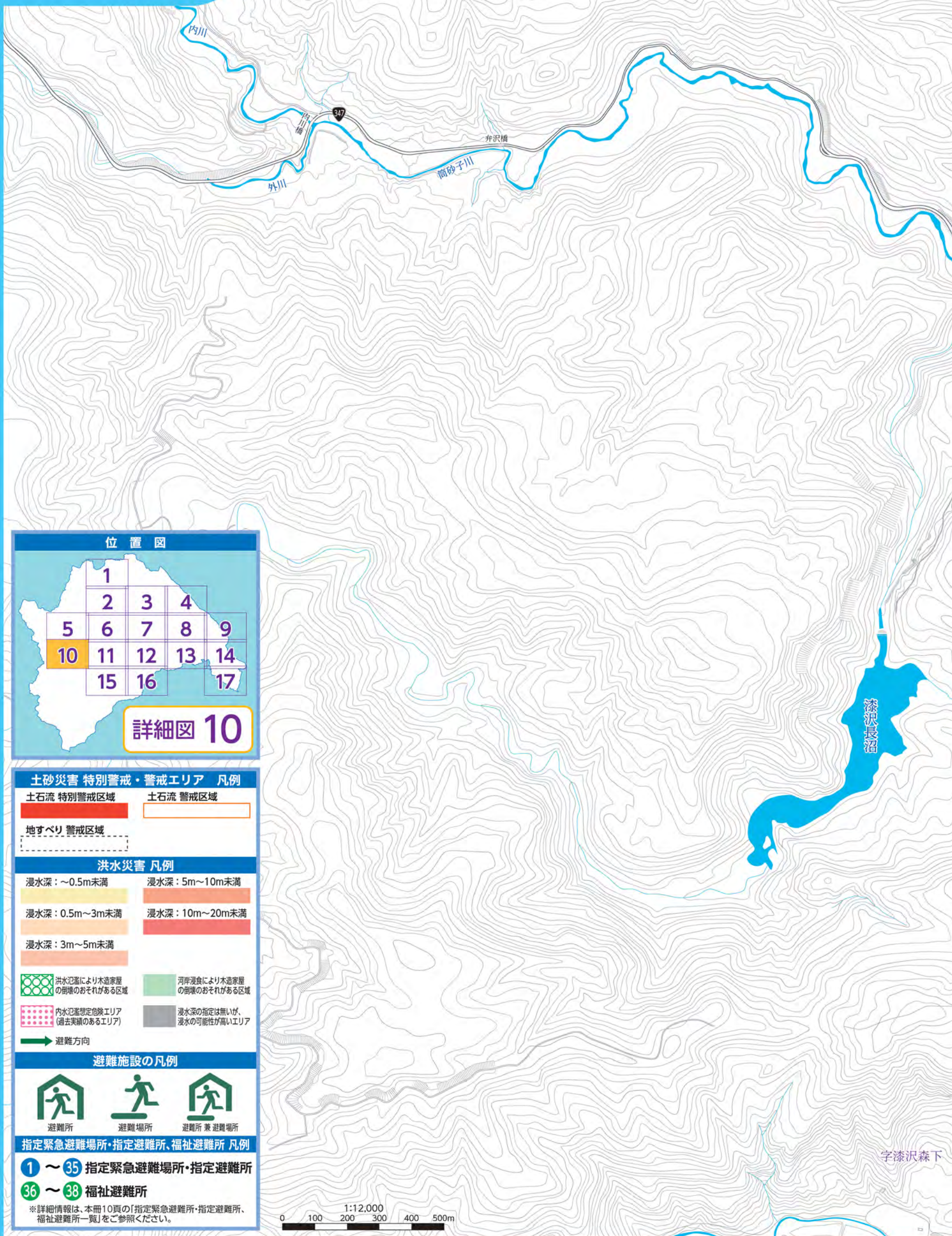
避難所  
避難場所  
避難所兼避難場所

**指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例**

1 ～ 35 指定緊急避難場所・指定避難所  
36 ～ 38 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。





位置図



土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例

土石流 特別警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

洪水災害 凡例

浸水深：～0.5m未満	浸水深：5m～10m未満
浸水深：0.5m～3m未満	浸水深：10m～20m未満
浸水深：3m～5m未満	
洪水氾濫により木造家屋の倒壊のおそれがある区域	河岸浸食により木造家屋の倒壊のおそれがある区域
内水氾濫想定危険エリア（過去実績のあるエリア）	浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア
避難方向	

避難施設の凡例



指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例

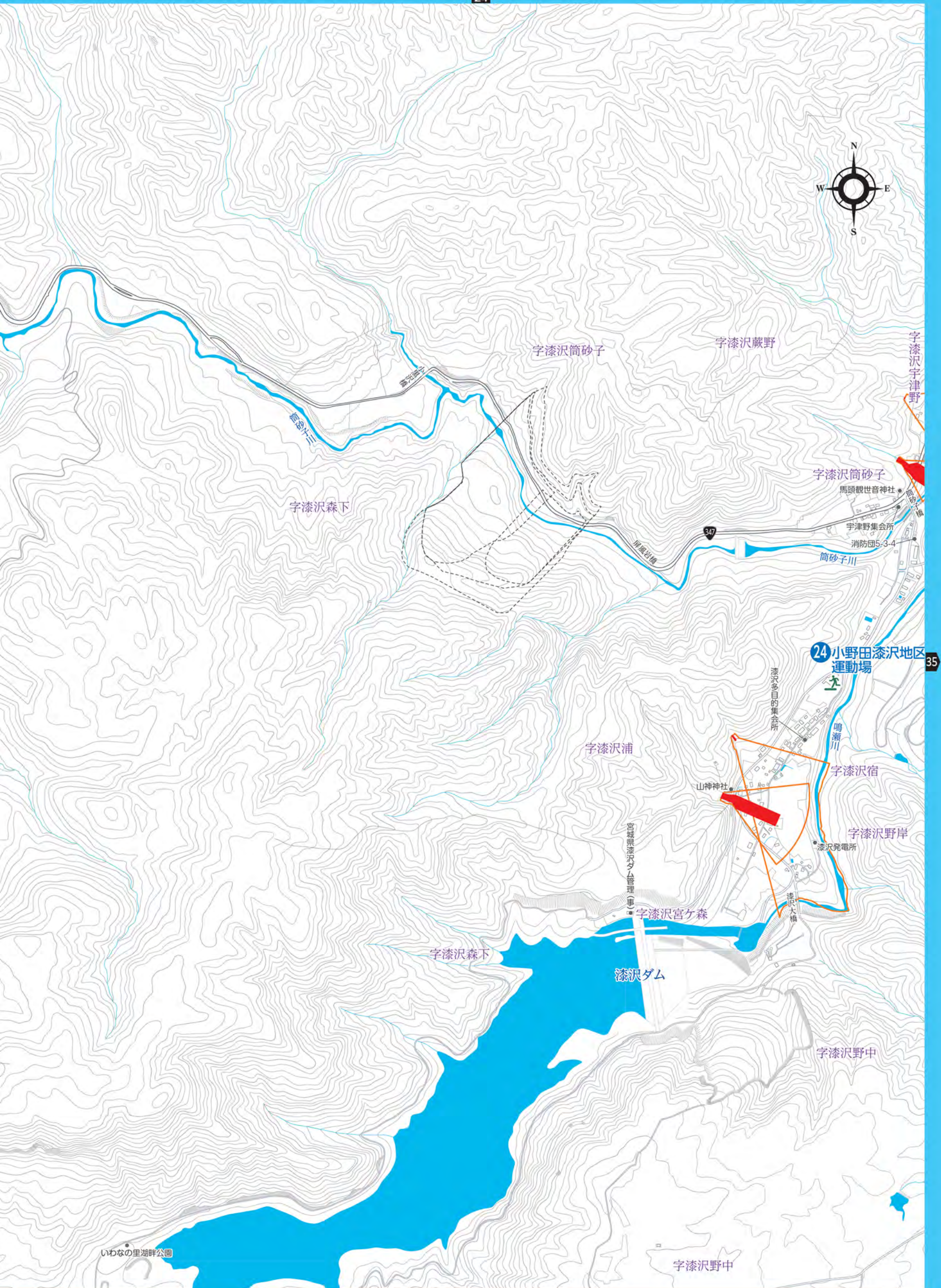
- ① ～ ③⑤ 指定緊急避難場所・指定避難所  
③⑥ ～ ③⑧ 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。

1:12,000  
0 100 200 300 400 500m

字漆沢森下

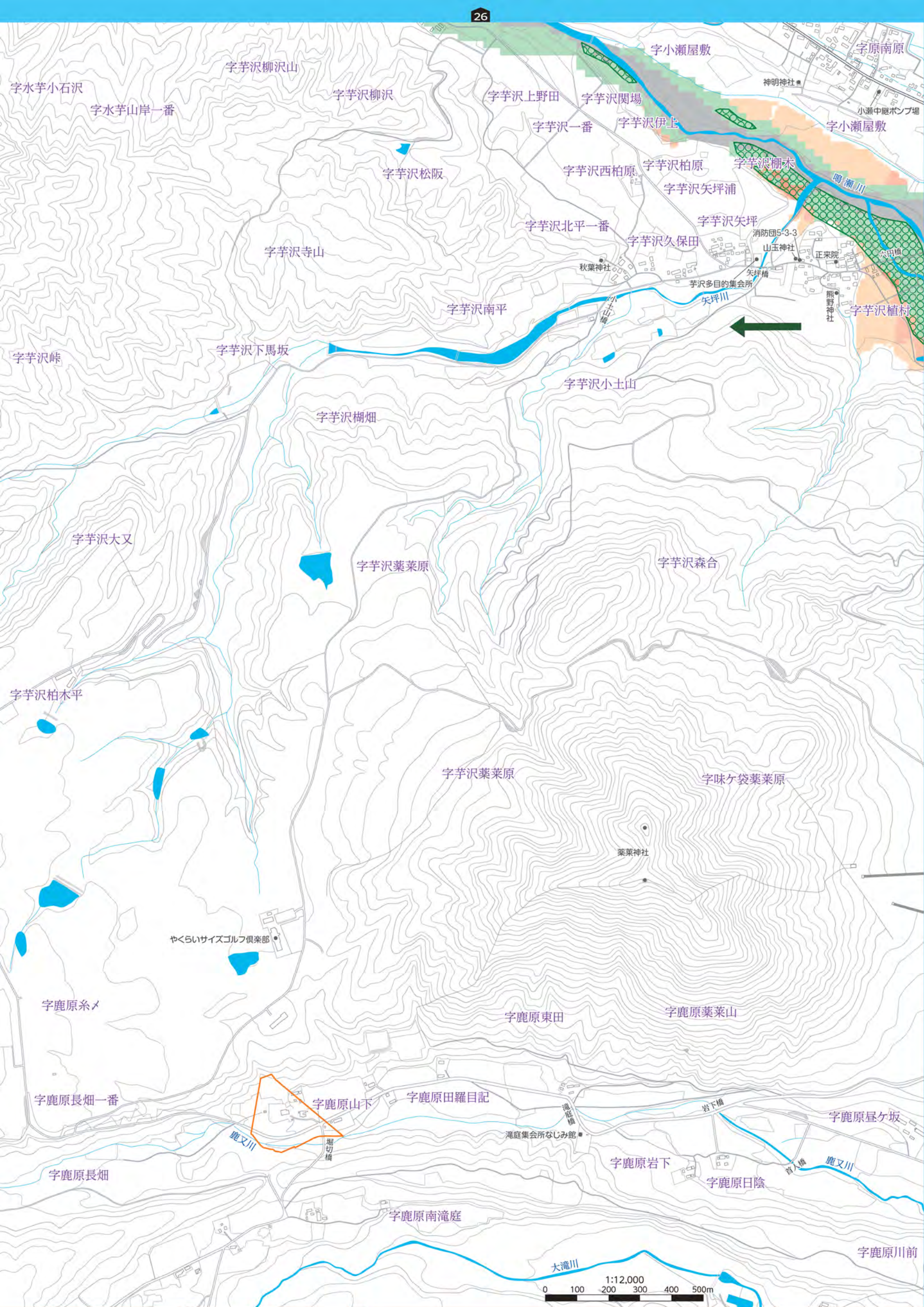












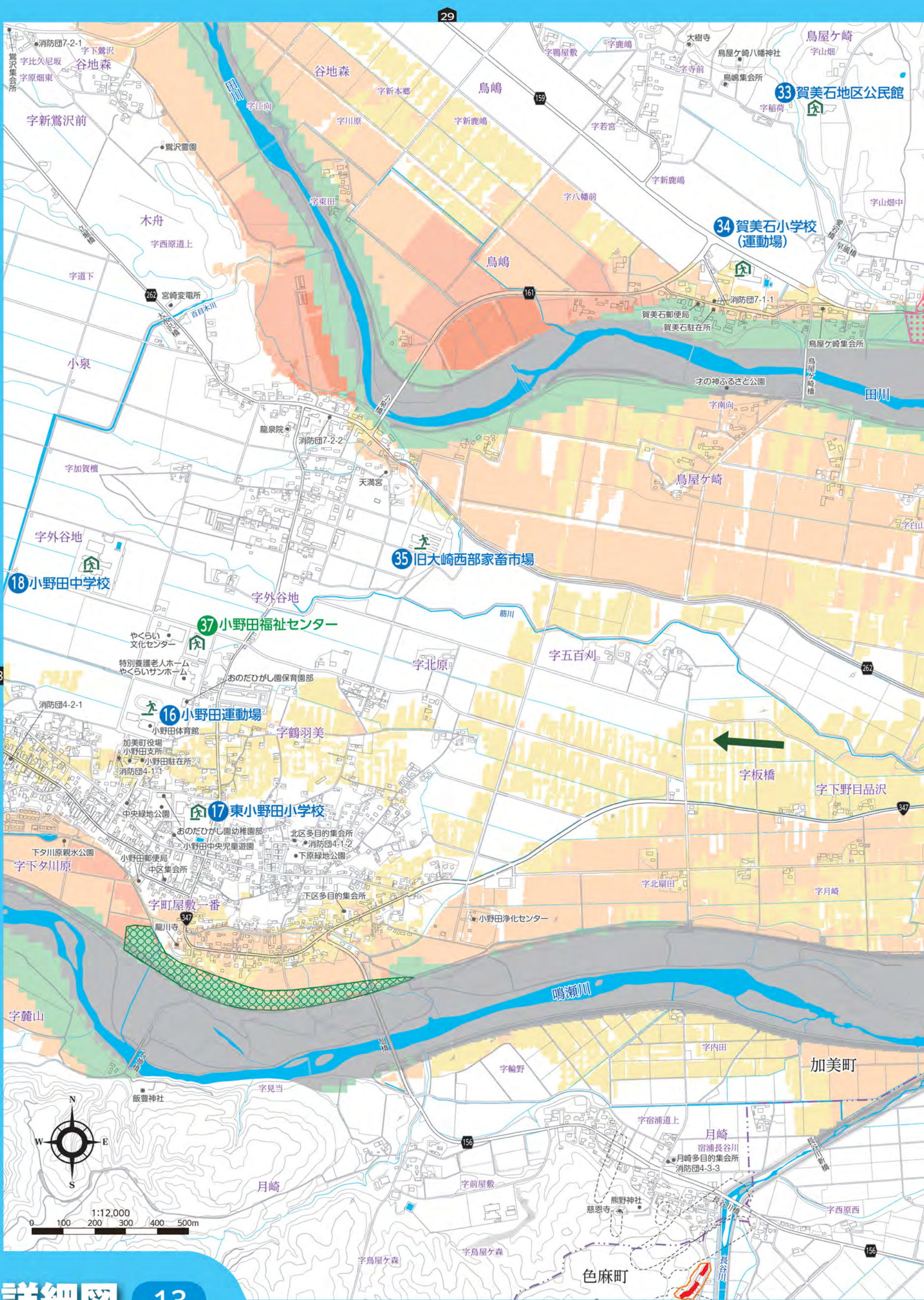














## 避難施設の凡例



避難所



避難場所



避難所兼避難場所

## 指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例

① ～ ③⑤ 指定緊急避難場所・指定避難所

③⑥ ～ ③⑧ 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。

## 土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例

土石流 特別警戒区域

土石流 警戒区域

地すべり 警戒区域

## 洪水災害 凡例

浸水深：～0.5m未満

浸水深：5m～10m未満

浸水深：0.5m～3m未満

浸水深：10m～20m未満

浸水深：3m～5m未満

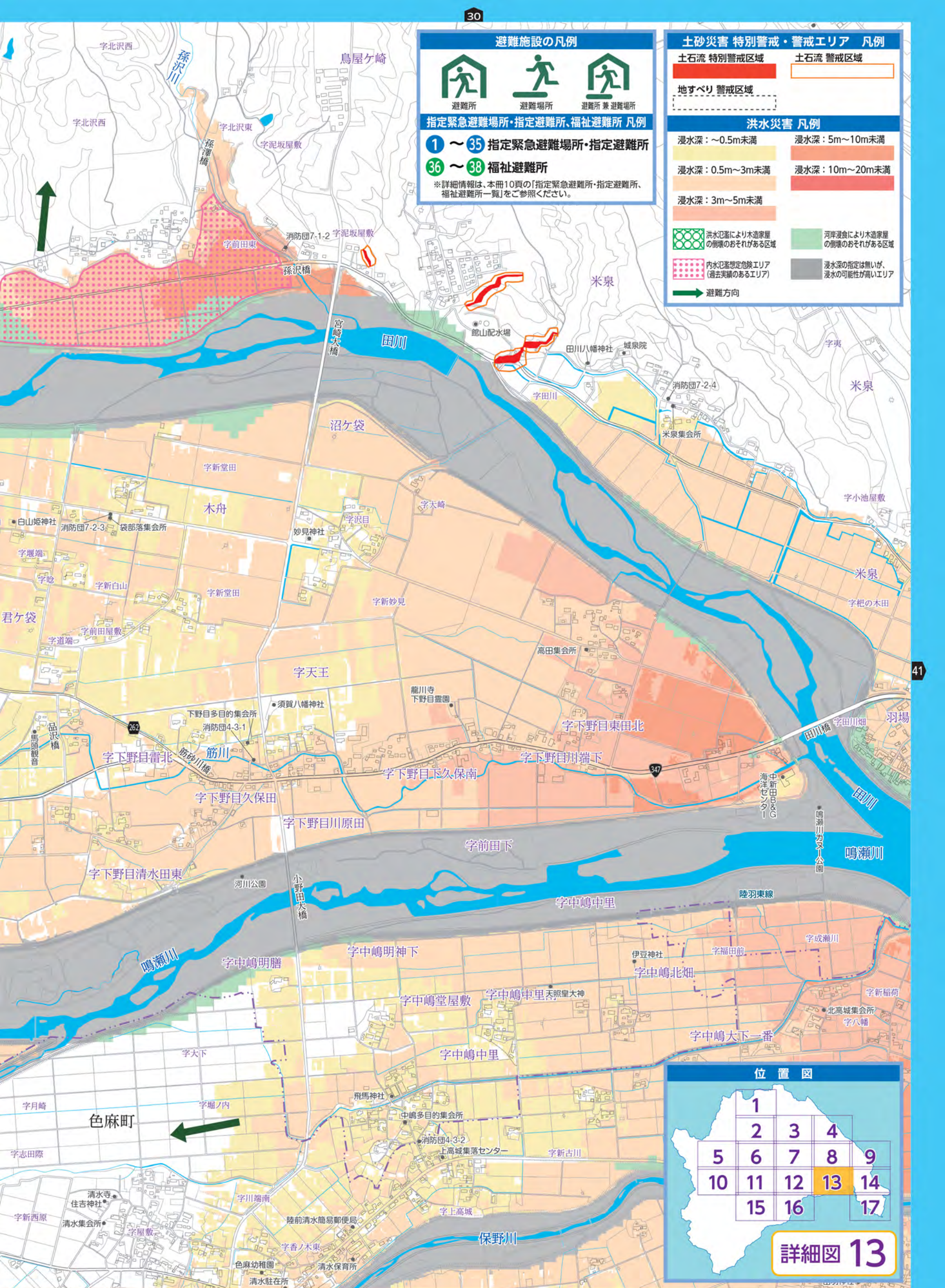
洪水氾濫により木造家屋の倒壊のおそれがある区域

河岸浸食により木造家屋の倒壊のおそれがある区域

内水氾濫想定危険エリア（過去実績のあるエリア）

浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア

避難方向



## 位置図

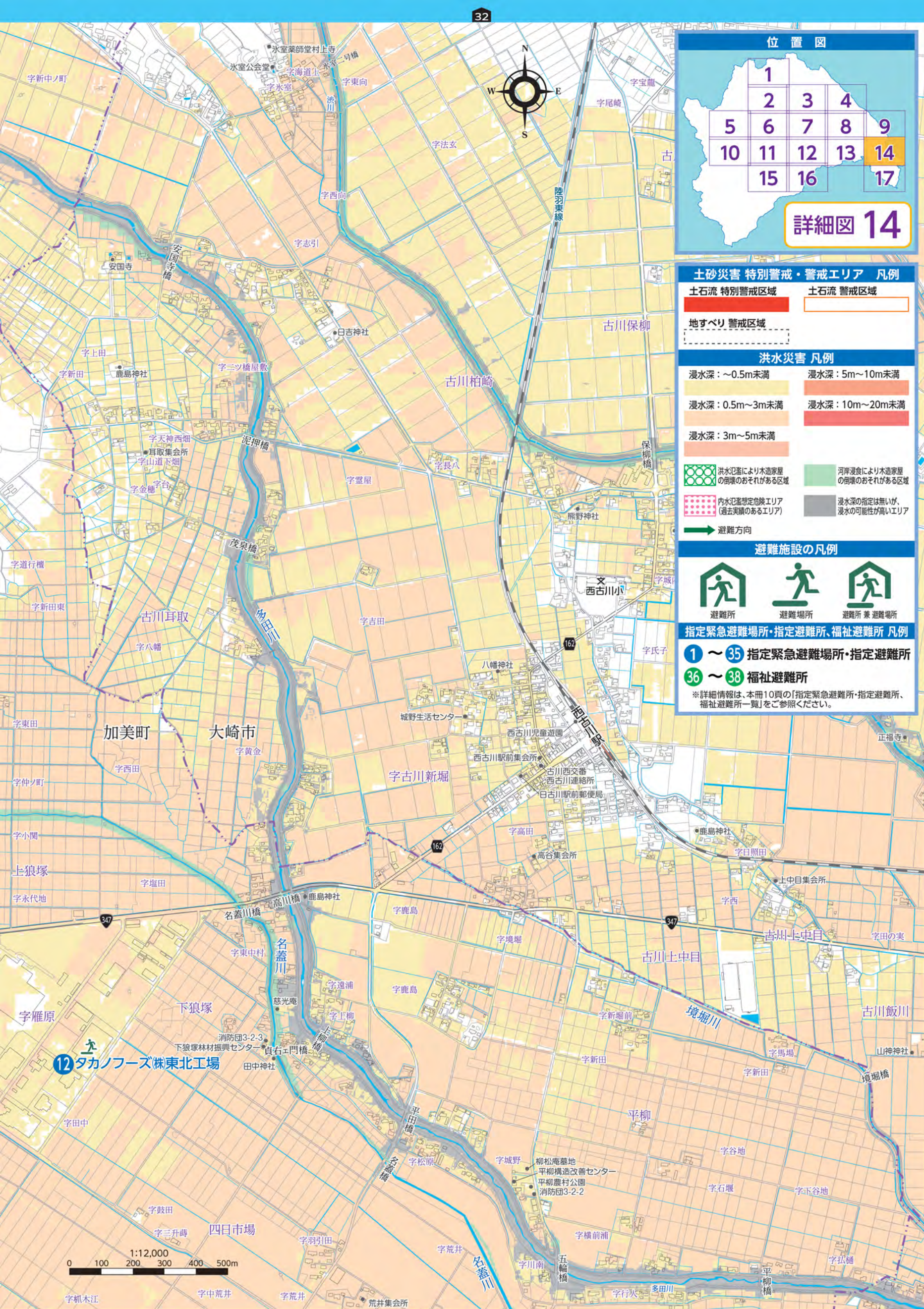
1	2	3	4	
5	6	7	8	9
10	11	12	13	14
15	16			17

詳細図 13









## 位置図

1	2	3	4	
5	6	7	8	9
10	11	12	13	14
15	16			17

## 詳細図 14

## 土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例

土石流 特別警戒区域	土石流 警戒区域
地すべり 警戒区域	

## 洪水災害 凡例

浸水深：～0.5m未満	浸水深：5m～10m未満
浸水深：0.5m～3m未満	浸水深：10m～20m未満
浸水深：3m～5m未満	

洪水氾濫により木造家屋の倒壊のおそれがある区域

河岸浸食により木造家屋の倒壊のおそれがある区域

内水氾濫想定危険エリア（過去実績のあるエリア）

浸水深の指定は無いが、浸水の可能性が高いエリア

避難方向

## 避難施設の凡例



避難所



避難場所



避難所 避難場所

## 指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例

1 ～ 35 指定緊急避難場所・指定避難所

36 ～ 38 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。

12 タカノフーズ(株)東北工場



## 土砂災害 特別警戒・警戒エリア 凡例

土石流 特別警戒区域

土石流 警戒区域

地すべり 警戒区域

## 洪水災害 凡例

浸水深：～0.5m未満

浸水深：5m～10m未満

浸水深：0.5m～3m未満

浸水深：10m～20m未満

浸水深：3m～5m未満

洪水氾濫により木造家屋  
の倒壊のおそれがある区域河岸浸食により木造家屋  
の倒壊のおそれがある区域内水氾濫想定危険エリア  
(過去実績のあるエリア)浸水深の指定は無いが、  
浸水の可能性が高いエリア

避難方向

## 避難施設の凡例



避難所



避難場所



避難所兼避難場所

## 指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所 凡例

① ～ ③⑤ 指定緊急避難場所・指定避難所

③⑥ ～ ③⑧ 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難場所・指定避難所、福祉避難所一覧」をご参照ください。



字漆沢野中

字鹿原下台野

字鹿原田谷地二ノ

字鹿原南滝庭

## 位置図



字鹿原南滝庭

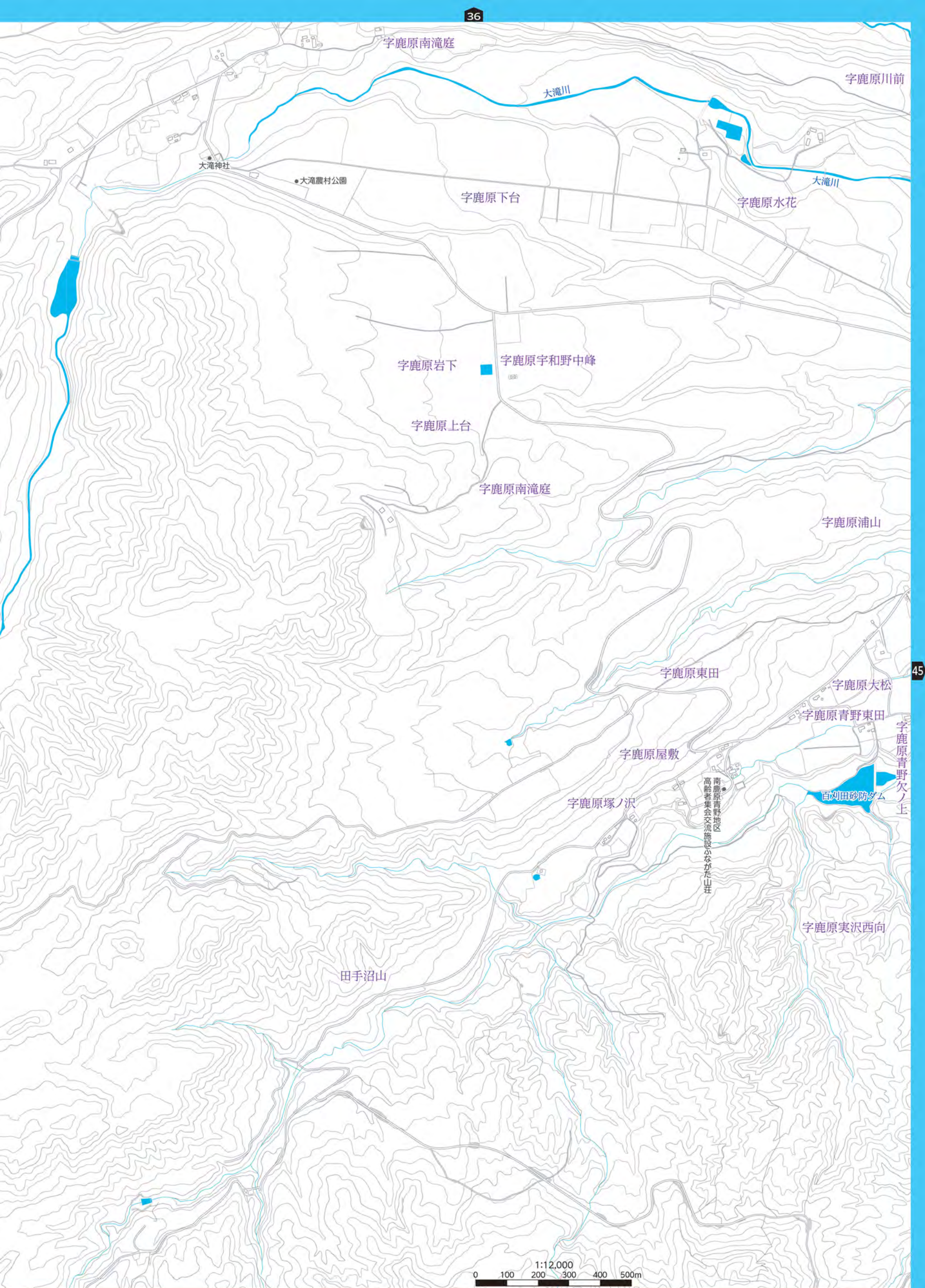
田手沼山

田手沼山

大滝川

大滝川

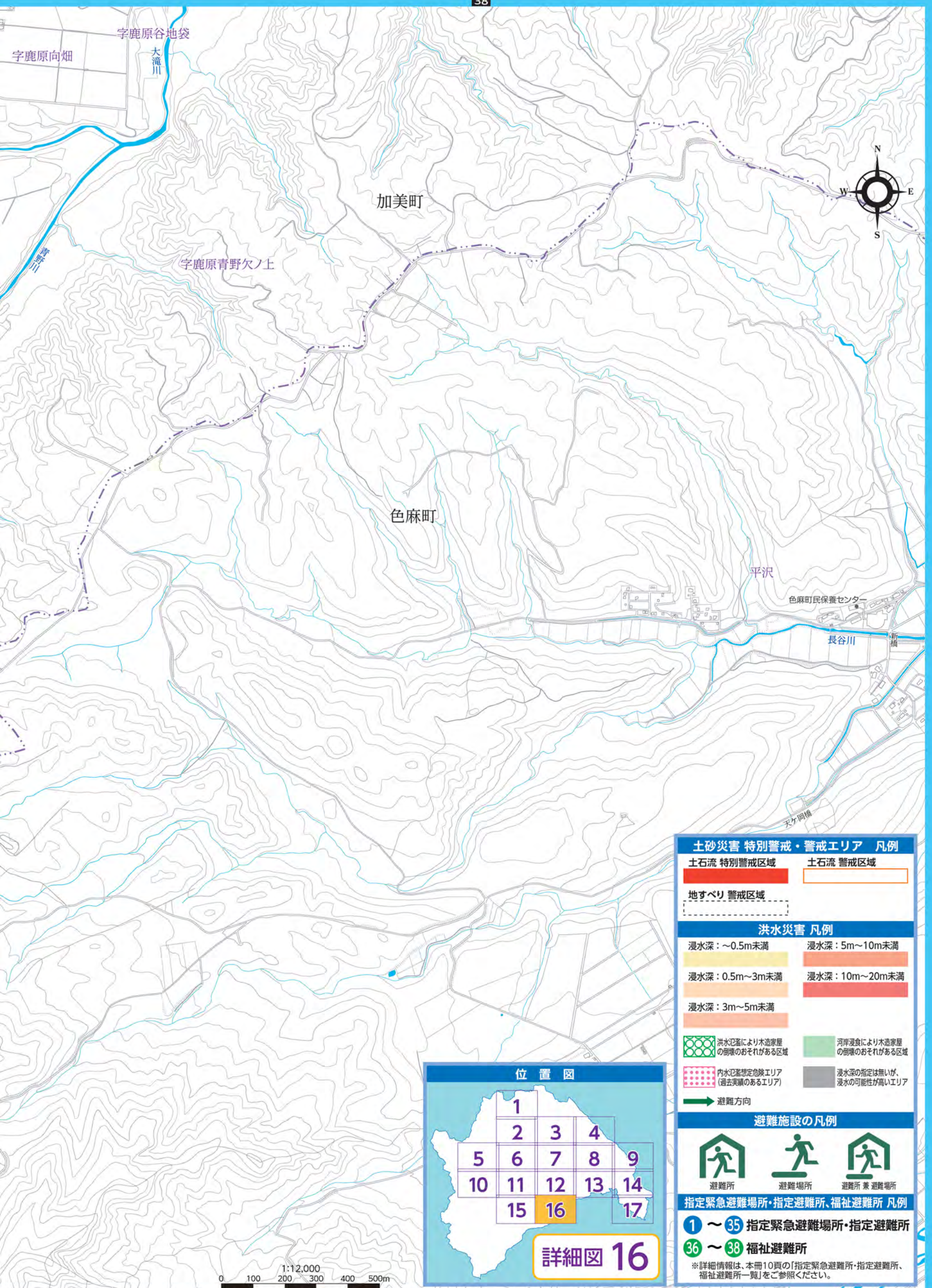








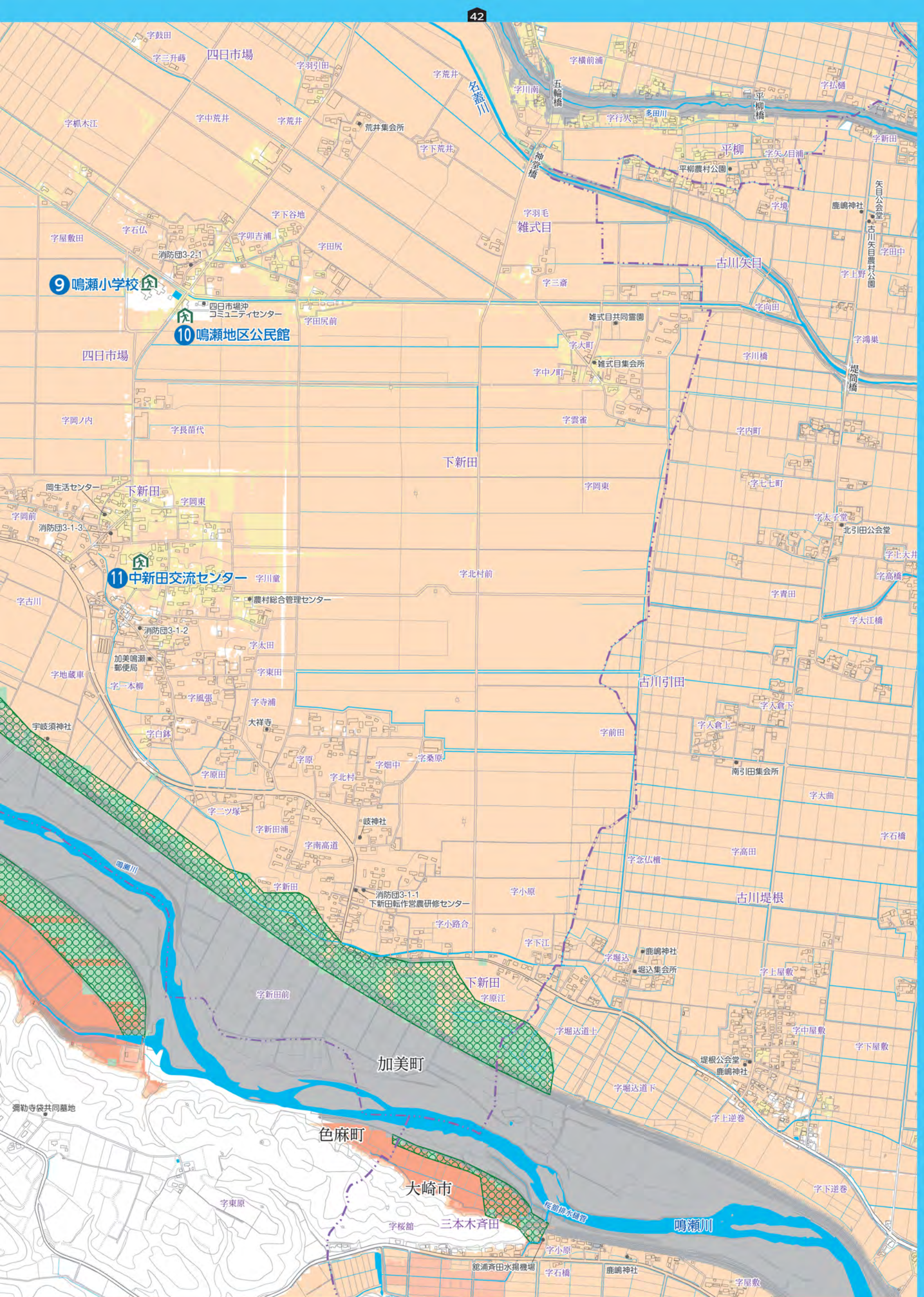














# ！「ため池」を知る

## ため池とは？

ため池は、農業用水を確保するために水を貯え取水ができるよう、人工的に造成された池のことです。農業用水としてだけでなく、防火用水など地域用水としても活用されています。

加美町では、防災重点農業用ため池のハザードマップを作成しています。  
各ため池の詳しい情報は、加美町ホームページで確認できます。

加美町ホームページの農業用ため池ハザードマップ

[https://www.town.kami.miyagi.jp/soshikikarasagasu/sangyoshinkoka/anzen_anshin/802.html](https://www.town.kami.miyagi.jp/soshikikarasagasu/sangyoshinkoka/anzen_anshin/802.html)



ため池ハザードマップとは、農業用ため池が大規模震災や集中豪雨などの想定を超えた自然災害により、農業用ため池の堤体(土手)が決壊した場合を想定して、

- ・浸水する区域
- ・浸水の深さ
- ・水の到達時間
- ・指定避難所

などを示したものです。



このため池ハザードマップは、万が一、

ため池が決壊した場合の、地域のみなさんの避難行動に役立てることを目的に作成しています。

町内のため池(猪沢2号・孫沢・牛ヶ首1号・2号・烏谷・菜切谷・小台2号)が決壊した場合に限定し、どのような被害となるのかを想定したもので、異常気象による周辺地域の河川や水路の氾濫等は考慮していません。よって、実際の浸水区域は、ため池の貯水量、堤体の被害の程度、周辺の土地利用の変化、河川や水路の氾濫等により、異なる可能性があります。

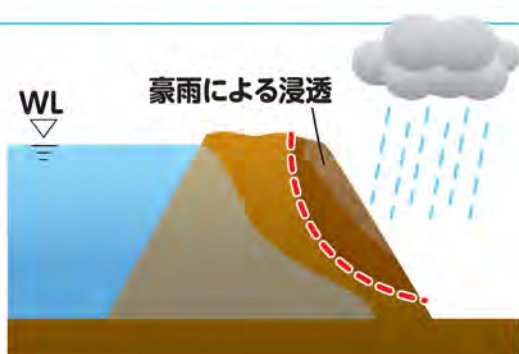
## ！こんな時は要注意！「大雨のとき」「大地震のとき」

大雨や大規模な地震の発生などにより、ため池の被害が予想されますので注意しましょう。

### 豪雨によるため池の被害メカニズム

#### ■すべり破壊

貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面の強度が低下することによって、法面ですべりが発生し破壊する場合があります。



### 地震によるため池の被害メカニズム

#### ■斜面すべり

地震等により堤体の法面にすべりが発生する場合があります。



## ため池事故防止

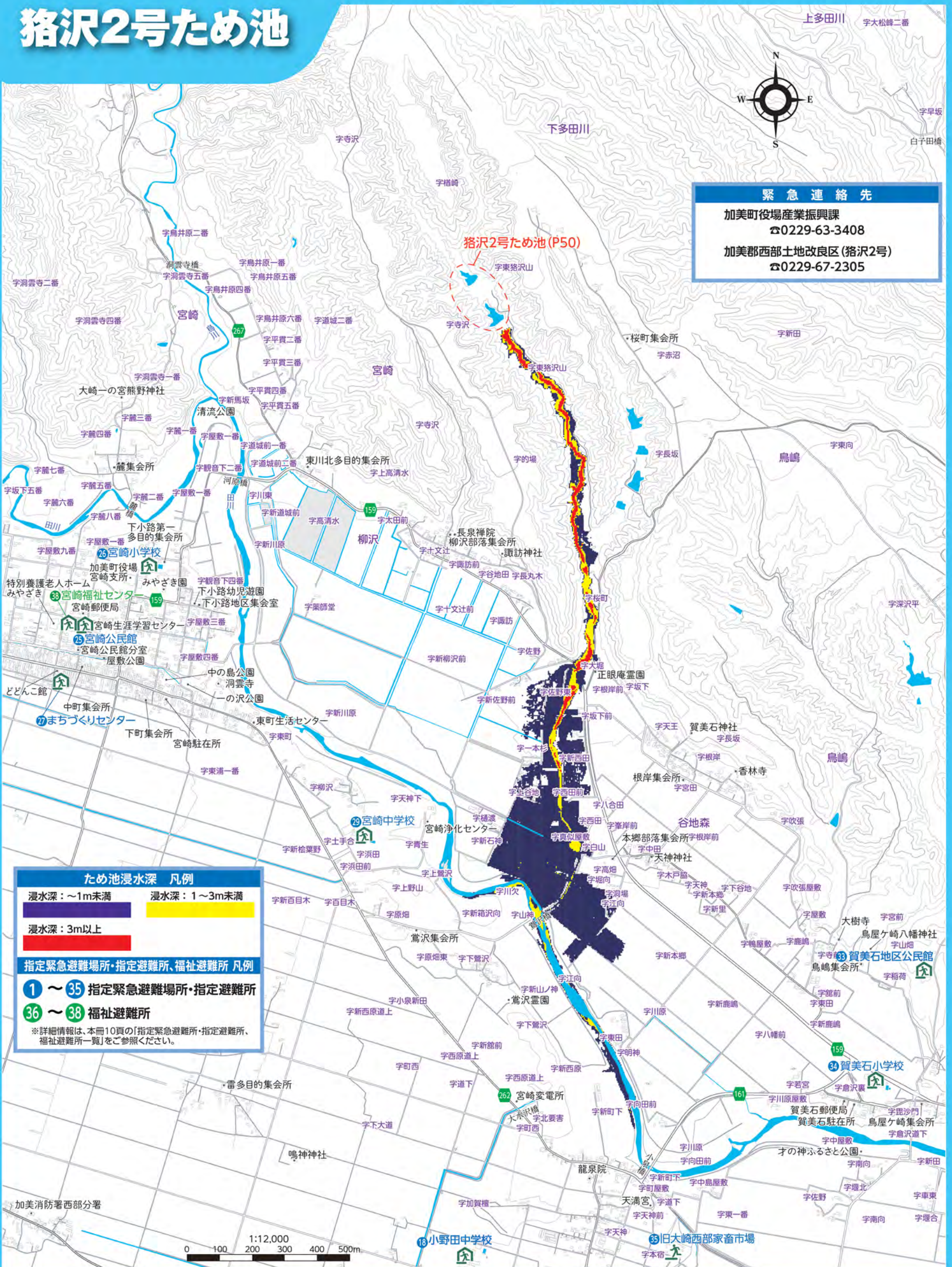


転落してしまう危険もあるため、普段からため池の近くで遊ばないようにしましょう！



# ため池ハザードマップ1

## 猪沢2号ため池





# 小台2号ため池

**緊急連絡先**

加美町役場産業振興課 ☎0229-63-3408

加美郡西部土地改良区(小台2号) ☎0229-67-2305

小台2号ため池(P51)

**孫沢・菜切谷ため池**  
**牛ヶ首1号・2号・鳥谷ため池**

孫沢ため池 (P51、52)  
菜切谷ため池 (P51、52)  
牛ヶ首1号ため池 (P51、52)  
牛ヶ首2号ため池 (P51、52)  
鳥谷ため池 (P51、52)

緊急連絡先

加美町役場産業振興課  
☎0229-63-3408

鳴瀬川沿岸土地改良区(孫沢・菜切谷)  
☎0229-52-2063

大崎土地改良区(牛ヶ首1号・2号・鳥谷)  
☎0229-36-1277

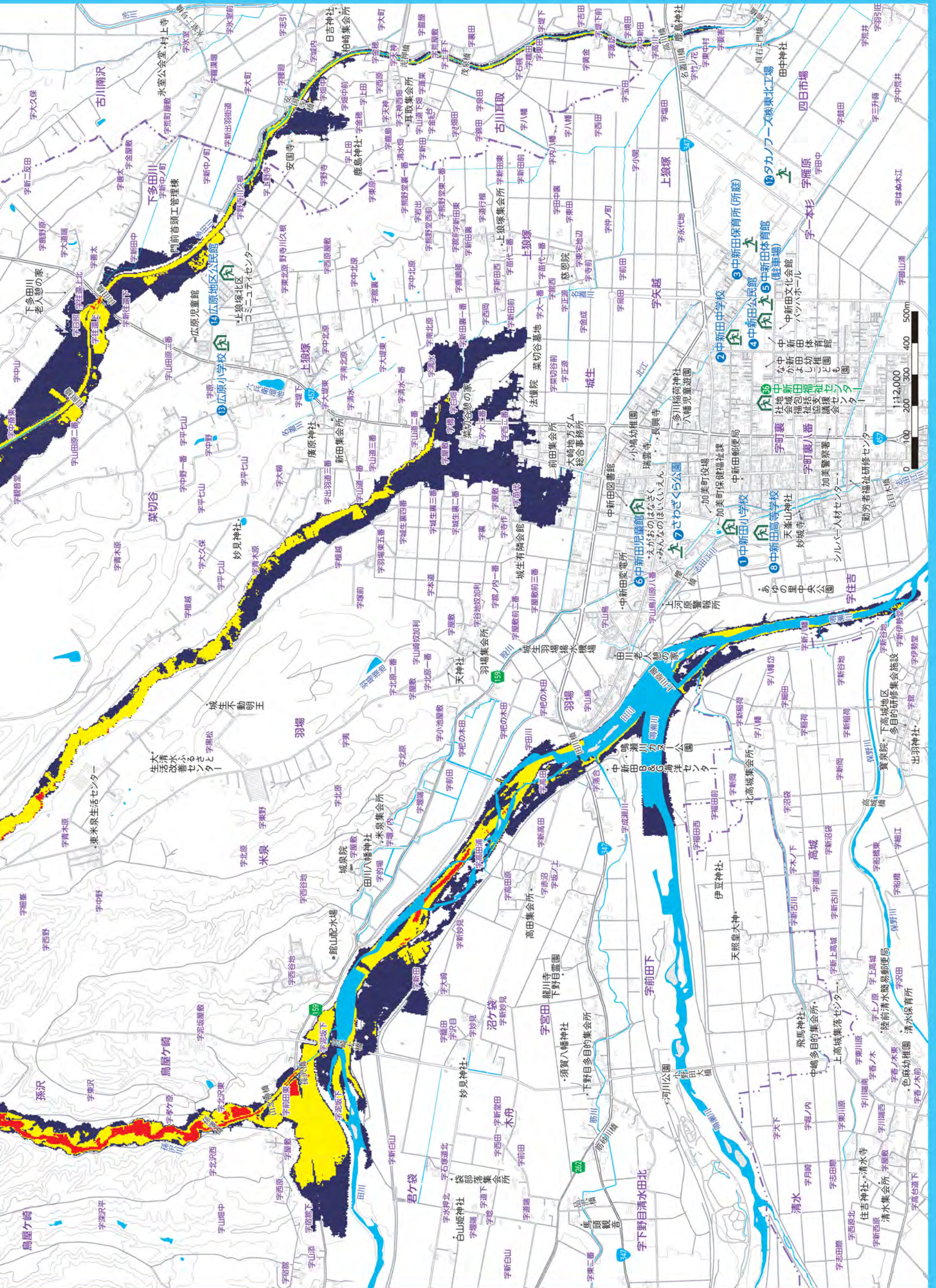
指定緊急避難場所・指定避難所・指定避難所 凡例

1 ～ 35 指定緊急避難場所・指定避難所  
36 ～ 38 福祉避難所

※詳細情報は、本冊10頁の「指定緊急避難場所・指定避難所・福祉避難所」を参照ください。

ため池浸水深 凡例  
浸水深：～1m未満  
浸水深：1～3m未満  
浸水深：3m以上







# ！マイ・タイムラインをつくらう

マイ・タイムラインとは？⇒水害時の自分の行動を時系列で整理した、自分で作る、自分のための計画表のこと!!

マイ・タイムラインは、台風接近などによって河川の水位が上昇した場合などに、一人ひとりがとる防災行動について、「いつ」「何をするのか」を整理した個人の防災計画です。あらかじめ災害時の自分の行動をシミュレーションしておくことで、急な判断が迫られる災害時に、自分自身の行動のチェックや、避難の判断をサポートするツールとして役立てることができます。

時間	河川の状況	警戒レベル	主な備え
3日前	<b>台 台風が発生</b> 自分がいるところで降って いなくても、上流で雨が降 れば川の水は増えてくる	<b>LEVEL 1</b> ●台風情報(※随時発表) ●早期注意情報 ・台風に関する 宮城県気象情報(随時)	<b>最新情報を確認しましょう</b> ○テレビで天気予報を確認 ○家族全員の今後の予定を確認 ○防災グッズの確認 (不足していれば買い出しへ) ○1週間分の薬を病院に受け取りに行く 
2日前	台風が近づいて、雨や風 がだんだん強くなる	<b>LEVEL 2</b> ●大雨注意報・洪水注意報 ・台風に関する今後の見通し	○家の周りに風で飛ばされそうなものがないか確認 ○家族全員の今後の予定をもう一度確認 ○ガソリンを入れておく
1日前	雨が集まって、川の水が だんだん増える	●上流域での大雨・洪水警報	
12時間前	<b>水防団待機水位到達</b> 激しい雨で、川の水がど んどん増えて、河川敷に も水が流れる  <b>氾濫注意水位到達</b> このまま増えると、 川があふれるかも	避難行動、避難方法を 確認 ●洪水予報発表 (氾濫注意情報) ●大雨・洪水警報	<b>ハザードマップなどで避難方法を確認しよう</b> ○万一来るに備え、親戚・知人へ 避難の受入について相談 ○ハザードマップで避難場所、避難経路を確認  ○携帯電話を充電 ○避難に時間がかかる場合は 避難の準備を開始 ○親戚・知人宅へ避難開始
5時間前	<b>避難判断水位到達</b>  川の水がいっぱい あふれそう	<b>LEVEL 3</b> <b>高齢者等は避難!</b> ●洪水予報発表 (氾濫警戒情報) → <b>高齢者等避難 発令!</b> → <b>緊急速報メール</b> ※プッシュ型のメールが配信 ・避難開始の目安になります ●土砂災害警戒情報	<b>高齢者などは早めに避難しよう</b> ○携帯メールなどで避難準備情報を受信 <b>○避難に時間がかかる方は避難を開始</b> ○避難所への避難を検討 ○持ち出し品の準備・再確認 ○テレビで洪水予報の確認 ○自主避難所や 車中泊避難が 可能な場所へ避難開始 
3時間前	<b>氾濫危険水位到達</b>  川の水があふれる前に、 安全なところへ逃げなきゃ!!	<b>LEVEL 4</b> <b>全員避難!</b> ●洪水予報発表 (氾濫危険情報) → <b>避難指示 発令!</b> → <b>緊急速報メール</b> ※プッシュ型のメールが配信	<b>危険な場所から全員避難しよう</b> ○携帯メールなどで避難指示を受信 <b>○町内の避難所へ避難する</b> <b>または、自宅内の浸水が想定されない            場所で身の安全を確保</b> 
0時間	<b>氾濫が発生</b>	<b>LEVEL 5</b> <b>安全確保!</b> <b>緊急安全確保 発令!</b> → <b>緊急速報メール</b> ※プッシュ型のメールが配信	<b>命を守る最善の行動をとろう</b> ○すでに災害が発生 または 切迫している状況



必要項目に記載し、☒チェックしましょう。

### ハザードマップを見て自宅周辺を確認

自宅は洪水浸水想定区域内にあるか ☐ある ☐ない

洪水浸水深は： m

自宅は家屋倒壊が発生するおそれがある区域内にあるか ☐ある ☐ない

自宅は土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所内にあるか ☐ある ☐ない

自宅はため池浸水想定区域内にあるか ☐ある ☐ない

ため池浸水深は： m

### 避難するタイミング、避難する場所

実際に避難するときどこへ避難するのか、危険を感じたらどこへ逃げるのか考えてみましょう。

■風水害に関する情報を収集し、危険を感じたり、避難情報を入手したらわが家は、

☐自宅に待機し、状況に応じて屋内安全確保します。 ☐へ立退き避難します。移動時間： (※むやみに外出せず、情報収集に努める) (指定避難所等)

## 家族で話し合ってシミュレーションしよう

### 記入例

- 家族の今後の予定を確認する。
- 備蓄品を確認する。
- コンタクト用品、薬を準備する。
- 植木鉢や物干し竿などを室内に取り込む。
- 浸水が想定される実家の両親へ連絡する。
- ガソリンを入れておく。
- 貴重品をまとめておく。(現金、通帳、印鑑、重要な書類など)
- いとこの家に避難させてもらえるか相談する。
- 隣の1人暮らしのおばあちゃんに声をかける。
- 携帯電話を充電する。
- 実家の両親を迎えに行く。
- 自宅の2階へ備蓄品を移動する。
- あらかじめ大事なものを高いところへ避難させる
- 自宅の2階へ移動する。
- テレビやインターネットで状況を確認する。

### マイ・タイムライン

いつ、どんな行動をとったらいいか考えて書き込んでみよう!

雨風が強くなる前に行うことを完了させる時期

水位等の状況を把握しつつ、避難に要する時間に応じて避難行動を開始する時期

身の安全を確保すべき時期

すでに災害が発生していてもおかしくない状況

- テレビで洪水情報を確認
- 外に出ず、自宅内の安全な場所へ待避

災害が発生する前に!

記入例を参考に、避難時の行動を書いてみよう。家族構成やペットの有無などによって様々なマイ・タイムラインができあがるよ

自然が相手だから、マイ・タイムラインどおりに進行するとは限らない。行動の目安として備えよう。気象情報・避難情報などはこまめにチェックしよう!



# わが家の「防災・緊急情報」メモ



非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。  
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

氏 名		電 話	
住 所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族などの 連絡先	氏 名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住 所	メ モ

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏 名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関

【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報（介護情報・救急隊員への伝言など）をお書きください。

緊急時 連絡先	氏 名	間柄	電 話	住 所	メ モ



## 災害用伝言ダイヤルの使い方

### 災害用伝言ダイヤルとは？

NTT では、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板（web171）」との連携により、伝言内容を相互に確認が可能。

利用ガイダンスにしたがってご利用ください。



発 行：加美町(問い合わせ：総務課危機管理室 0229-63-5264)  
制作・著作：株式会社ゼンリン仙台営業所  
作 成：令和4年12月

「この地図は、加美町長の承認を得て、同町発行の1/2,500、1/10,000都市計画図・地形図を使用し、調製したものである。(承認番号)加美町指令第157号」  
「この地図は、宮城県知事の承認を得て、同県発行の1/5,000森林基本図を使用し、調製したものである。(承認番号)林振第761号」